

財団
法人

東洋文庫年報

平成4年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 平成4年度

目 次

I 図書事業	1
1. 図書資料の収集	1
2. 図書資料の保存整理	2
3. 図書資料の利用	3
4. 研究資料複写サービス	6
II 研究事業	7
1. 調査研究	7
i 文部省科学研究費による調査研究	7
ii 一般調査研究	12
iii 特別調査研究	15
iv その他の研究助成金による事業	16
v 研究委員会	20
2. 学術図書出版	21
3. 講演会	23
4. 研究会（東洋文庫談話会）	25
5. 研究者養成	25
6. 学術情報提供	25
i 研究者の交流および便宜供与サービス	25
ii 研究会等への会場提供サービス	30
iii 研究資料の覆刻・増刷・刊行サービス	31

iv 参考情報提供サービス	31
7. 職員の研究業績	32
Ⅲ 業 務 報 告	81
1. 総務報告	81
2. 人事報告	82
Ⅳ 役 職 員 名 簿	83
1. 役 員	83
2. 東洋学連絡委員会委員	85
3. 名誉研究員	85
4. 職 員	86
5. 臨 時 職 員	89
Ⅴ 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業	90
1. ユネスコ協力活動	90
2. 学術情報活動	90
3. 重要文献の保存・普及活動	95
4. 研究普及活動	96
5. 業務報告	98
6. 役職員名簿	102

付 表

「財団法人東洋文庫 特別講演会 開催略年表」	49～57
「財団法人東洋文庫 談話会 開催略年表」	58～80

I 図 書 事 業

1. 図 書 資 料 の 収 集

購入・交換・寄贈によって収集した資料は、一般文献資料・中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料・東南アジア特別研究資料・チベット特別研究資料・近代中国研究資料があり、昨年度より17,903冊増加して蔵書数は769,433冊となった。

● 資 料 購 入

	和 漢 書	洋 書	マイクロ・ フィッシュ	マイクロ・ フィルム	計
	冊	冊		巻	
一 般 文 献 資 料	290	56	0	0	346
中央アジア特別研究資料	789	209	0	0	998
東アジア特別研究資料	1,112	15	0	0	1,127
西アジア特別研究資料	40	1,426	0	0	1,466
東南アジア特別研究資料	0	49	0	0	49
チベット特別研究資料	78	126	0	0	204
近代中国特別研究資料	951	111	0	0	1,062
計	3,260	1,992	0	0	5,252

● 資 料 交 換

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	国 内	国 外	計
	冊	冊	冊	冊	冊	冊
単 行 本	1,103	1,524	2,627	1,699	1,024	2,723
定期刊行物	7,606	2,418	10,024	1,683	1,407	3,090
計	8,709	3,942	12,651	3,382	2,431	5,813

2. 図書資料の保存整理

●補修再製本・製本

①	単行本			
	和装		洋装	整理保全
数量	葉 裏打	冊 2,817	冊 55	冊 262 点 2,198

②	定期刊行物	製 帙	複写資料製本			その他
数量	冊 1,144	帙 519	冊 和装 187	折 5,642	点 洋装 192	点 358

●撮影・焼付

	撮 影 齣 数	焼付引伸数	フィルム反転	電子複写数	整 理 作 業
数 量	コマ 77,158	枚 15,419	リール 160	葉 0	件 4

・新着図書目録の刊行

東洋文庫が1991年4月から1992年3月までの間に収集した和書・中国書・朝鮮書・近代中国和書・近代中国中国書の書名目録第40号が刊行された。

3. 図 書 資 料 の 利 用

● 図 書 閲 覧 状 況

平成4年度の所蔵図書の閲覧状況は次の通りであった。

月	開 館 日 数		閲 覧 者 数		日平均	昨年同月との比
	日	累 計	日	累 計		(△印は減)
4	22	22	254	254	12 弱	△7
5	18	40	282	536	16 強	10
6	22	62	331	867	153 強	30
7	22	84	406	1,273	18 強	19
8	20	104	428	1,701	21 強	△13
9	19	123	308	2,009	16 強	△27
10	21	144	468	2,477	22 弱	63
11	17	161	414	2,891	24 強	15
12	17	178	344	3,235	20 強	△32
1	17	195	207	3,442	12 強	△47
2	18	213	249	3,691	14 弱	△26
3	22	235	310	4,001	14 強	25
計	235		4,001			10

● 閲覧図書数内訳

	和 書		漢 書		洋 書		合 計		日平均	昨年同月との比 (△印は減)
	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数		
4	265	486	356	1,379	138	223	759	2,088	95 弱	△839
5	246	501	476	2,608	185	303	907	3,412	190 弱	1,057
6	250	433	450	2,732	269	485	969	3,650	166 弱	△1,834
7	355	796	654	2,873	326	509	1,335	4,178	200 弱	△1,146
8	359	796	795	4,868	325	444	1,479	6,108	305 強	△1,065
9	274	456	491	2,915	273	392	1,038	3,763	198 強	△1,267
10	326	498	762	4,974	332	594	1,419	6,066	289 弱	△648
11	416	803	693	3,706	301	617	1,410	5,126	302 強	△1,581
12	305	402	590	3,349	229	391	1,124	4,142	244 弱	△2,438
1	114	270	415	2,267	187	333	716	2,870	169 弱	△1,031
2	122	255	384	2,363	266	423	772	3,041	169 弱	82
3	184	432	631	3,541	300	552	1,115	4,525	206 弱	△696
計	3,216	6,128	6,697	37,575	3,131	5,266	13,043	48,969		△11,406

●展覧会等への資料の貸出

博物館・美術館等が主催して行う展覧会への貸出しは7件あり、貸出資料は合計19点であった。展覧会名、主催者、展示期間、開催場所、おもな資料名と数量は次のとおりであった。

展覧会への資料の貸出一覧

	展 覧 会 名	主 催 者	展 示 期 間	開 催 場 所	主な資料名と数量
1	コロンブスの見た日本	神戸海洋博物館	平成4.4.28 —5.31	神戸海洋博物館	「日本考略」 他2点
2	元禄歌舞伎展	早稲田大学演劇博物館	平成4.6.4 —6.27	早稲田大学演劇博物館	「壬生大念仏」
3	猿の文化史	大阪人権歴史資料館	平成4.10.20 —12.20	大阪人権歴史資料館	「さるかに合戦」他2点
4	琳派一版と型の展開—	町田市立国際版画美術館	平成4.10.10 —11.29	町田市立国際版画美術館	「光悦謡本」
5	庚申信仰展	八潮市立資料館	平成4.10.11 —12.10	八潮市立資料館	「入唐求法巡礼行記」
6	歌仙絵の世界	埼玉県立博物館	平成4.10.20 —11.29	埼玉県立博物館	「歌仙絵抄」 他3点
7	西廂記と明代挿絵本	町田市立国際版画美術館	平成5.1.5 —2.14	町田市立国際版画美術館	「西廂記」 他5点

(なお、展示は会期中の2週間のみ行われた。)

4. 研究資料複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記の通りであった。

● マイクロ・フィルム

申 込 件 数	撮 影 齣 数	焼 付 引 伸 数	ポジ・フィルム
736件	135,304	66,703	76,360

● 電 子 複 写

申 込 件 数	焼 付 枚 数
973件	75,454枚

Ⅱ 研 究 事 業

1. 調 査 研 究

調査研究は、文部省科学研究費補助金によるものと、文部省国庫補助金による一般・特別研究と、並びにその他の研究助成金によるものとにわかれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

一般研究 (B)

【課 題】 「三国志に記された東アジアの言語および民族に関する基礎的研究」

【期 間】 平成4年度 (3ヶ年継続事業最終年度)

【目 的】 戦後何度か日本人の起源が問われ、その都度日本語の起源が問い直されてきたが、日本語の起源は今のところ結局不明のままに終わっている。その起源の無益な論争よりも、日本民族が古代の東アジア(中国東北部・朝鮮半島及び日本列島)に出現したとき、その周辺にいかなる民族が居住し、いかなる言語を話していたかを探究することの方が、日本語の前史を明らかにする上で重要である。それを知る上で最も貴重な資料が中国の史書『三国志』である。

『三国志』は、その中に東夷伝倭人の条(いわゆる魏志倭人伝)を含むことも明らかなように、当時の倭その他の民族の諸状況および中国との関係を探る上で、最も基本的な文献である。本研究では、『三国志』の成立と伝承をめぐる諸問題の再検討の、ならびに本文批判の基礎のうえに、当時の東アジアの言語と民族についてさまざまな角度から探究することを目的とする。

【事 業】 第1年度(平成2年度)

- ① 本研究の出発である『三国志』の「魏志」「烏丸鮮卑東夷伝」の解明に「魏志」全体の文献学的研究を行なった。そのため「魏志」の文を大量に引用している宋代の類書『太平御覧』所引のテキストと通行

本『三国志』のテキストを対比して、その異同を検討し、コンピュータを利用してその対照表を作成した。

- ② ①で得られた対照表を利用して「魏志」に記載された諸民族に関する情報をコンピュータによって索引化した。

第2年度（平成3年度）

- ① 対照表によりテキストの対校を行なったが、その過程で『三国志』の原資料に記事の混乱が認められた。殊に「韓傳」の「辰韓・弁辰」の条は「倭人傳」とは時代を異にする状態の記述が混在していることが分かった。

- ② 各民族の詳細な索引を作っている中で、たとえば「單于」という首長の称号が、匈奴と同系の烏丸・鮮卑にも見られることが分かった。

当該年度・第3年度（平成4年度）

第1年度および第2年度の調査に基づき他の関係資料をも参考にし、次の4点の研究を行なった。

- ③ 朝鮮の史書『三国史記』の「地理志」の古地名には、高句麗語の地名の中にむしろ日本語に近い濊人の言語の地名が伝えられていること。

- ④ 『日本書紀』に伝えられる古代韓土の言語は主として韓族の言語であるが、百済の支配階級の貊族の言語も僅かに見出されること。

- ⑤ 『三国志』以降の中国の正史から「高句麗」と「渤海」、「靺鞨」の関係を追求し、「高句麗」がツングース族でないことをつきつめた。

- ⑥ 現在のツングース民族の分布状況を地図化して、言語地理学的に、「高句麗」はもと旧アジアの1族であったが、ツングース族との接触でツングース化した可能性を推定した。

以上、3ヶ年間の研究成果については、旧ソ連領域内の諸民族の分布状況の現状から「三国志」の時代以後の諸民族の移動を推定し、その分布状況図（カラー版）を作成し巻末に添付して『研究成果報告書』を作成した。

【代表者】 河野六郎研究員

【分担者】 総括； 河野六郎（朝鮮語・言語学）

言語・音韻班； 亀井 孝（国語学・言語学）、古屋昭弘（中国語学）

民族・歴史班； 松村 潤（東洋史・満州語）、武田幸男（朝鮮史）

歴史・考証； 石川重雄（中国史）

一般研究 (A)

【課 題】 「東南アジア・南アジア史研究資料の基礎的研究」

【期 間】 平成4年度（2ヶ年継続事業最終年度）

【目 的】 近年、わが国では国内の主要な大学図書館や研究機関に東南アジア・南アジア関係の文献が多数おさめられるにいたっている。それにともない東南アジア・南アジア関係の研究者が増大し、歴史研究も急速に進歩してきている。しかしながら、国内のこうした大学図書館や研究機関はかならずしも一般に公開されているとはいえず、またそうした機関に所蔵されている文献はしばしば特定の分野にかたよっており網羅的なものとはとうていいえない。今日、東南アジア・南アジア研究者のあいだでは、特定の分野・個別的研究のわくをこえた総合的また学際的な研究の必要性、ならびに開かれた研究機関での系統的・網羅的な資料収集・整理の必要性がますますたかまっている。こうした総合的な東南アジア・南アジア研究のために、および今後ますます数を増すとおもわれる研究者の便宜のために、東南アジア・南アジアの歴史研究の基本資料を、広く調査し、系統的・網羅的に収集すること、ならびに資料に関する開かれた情報センターをおくことはきわめて有意義なことである。財団法人東洋文庫は今日までに東南アジア・南アジアの各時代・各分野を専攻する研究員を擁し、かつ育ててきた機関であり、東南アジア・南アジア関係の研究資料を系統的に調査研究してきた開かれた機関である。本研究の目的は、当研究機関のこれらの研究員を動員して、東南アジア・南アジア史研究の基本資料を調査、収集すること、およびその成果を公開して、わが国の東南アジア・南アジア研究の進歩に貢献することである。

【事 業】 当該研究課題「東南アジア・南アジア史研究資料の基礎的研究」のもとでの2ヶ年にわたる共同研究の結果、日本における研究資料の体系的、系統的整理の方法についての新たな知見を得ることができた。

山本達郎研究者代表は、代表者として研究の全体を総括するとともに、役割としては東南アジア、大陸部、ベトナムの歴史資料研究を分担し、日本における従来の資料整理の不十分さを問題にして、新たな資料研究の方向をうちだした。

石井米雄研究分担者は、東南アジア、大陸部、タイ史資料を検討し、とくにタイ・ムスリムとタイの宗教について問題点をあきらかにし、資

料問題についての系統化をあきらかにした。

池端雪浦研究分担者は、東南アジア、諸島部、フィリピンの資料問題をとりあげ、新たに発掘した日本軍政下の資料を検討して、華人社会の問題にふれ、近代、現代史の資料問題の大系化、系統化をあきらかにした。

原實研究分担者は、インド古代の文学資料の性格を問題にし、古典資料の厳密な校訂の方法にふれ、とくに辻文庫の収集、整理、言語学上の厳密な方法にもとづく検索表の作成は、当該研究上の大きな成果である。

山崎元一研究分担者は、インド古代史上の資料問題にふれ、古代史の資料批判、整理の方法についてまとめた。

荒松雄研究分担者は、インド中世史の資料問題にふれ、文献資料のみならず、考古学上の資料、遺跡について、資料整理についての新たな視点をうちだした。

小名康之研究分担者は、インド近世、近代の資料、とくにヨーロッパ人による資料の整理を問題にし、マニュスクリプトの系統的整理をおこなった。

以上、最終年度として収集した基本資料の目録をつくり、研究成果をとりまとめ『報告書』を作成した。

【代表者】 山本達郎研究員

【分担者】 総括； 山本達郎（東南アジア史）

東南アジア・南アジア； 山本達郎（ベトナム，歴史），石井米雄（タイ，民俗）

東南アジア・諸島部； 池端雪浦（フィリピン，歴史）

南アジア・古代； 原 實（インド，文学），山崎元一（インド，歴史）

南アジア・中世； 荒 松雄（インド，歴史）

南アジア・近世； 小名康之（インド，歴史）

特別研究員奨励（日本学術振興会）

【課 題】 「中世イスラム社会における聖者崇拜・聖墓参詣に関する歴史学的研究」
[個人研究：大稔哲也]

【期 間】 平成4年度（2ヶ年継続初年度）

【目 的】 本研究は歴史学研究に人類学・民俗学の方法・成果を採り入れ、それによって従来の「社会史研究」を更に一歩進めることを目的とする。そのため、当時の中東社会全体を考察する上で不可欠な問題である「聖者崇拜・聖墓参詣」を取り上げ、史料の豊富なエジプトを舞台に探究してゆく。具体的には、聖者崇拜・聖墓参詣慣行の実態、参詣者の世界観・意識の構造、聖者の奇蹟、王朝による統御と民衆の拮抗、墓地区の発展、イスラームの慣行等について検討を加える。また、本テーマは現在にまで継続する問題であるため、フィールド・ワークも行ない、その成果を文献研究と総合し、より包括的かつ鮮明な「中世」イスラーム社会像を提示したい。

【研究計画】 従来の中東「中世」研究は、政治史・社会経済史主導で行われてきた。しかし、民俗・生活文化レベルでの具体的在り方については、不明点が実に多い。そこで、申請者は比較的豊富な史料を有するエジプトを主たる対象に定め、方法的には歴史研究の分脈に人類学・民俗学の成果を採り入れつつ、いわゆる社会史研究を行なってみたいと考える。そして、この視点の実践のため、研究テーマとして「中世」エジプトにおける聖者崇拜・聖墓参詣の問題を取り上げることにした。中世エジプト史を考える上で、この聖者崇拜・聖墓参詣の果たした意義は極めて大きい。それは単に、当時エジプトを訪れた者が必ずそこへ参詣に行ったことや、カイロ市民が日常的に参詣・娯楽・住居の場としたためのみならず、墓地群に流入した人口による暴動を恐れた政府が、常にその統御に腐心するなど、支配権力と民衆とがせめぎ合う磁場であったためである。また、イスラームの宗教的観点からもこの聖墓参詣の是非は当時、大論争の焦点となり、現代イスラーム原理運動に至るまで、イスラーム世界において最もしばしば議論されてきたテーマの一つである。因って、具体的な研究の細目としては、

- ① 聖者崇拜・聖墓参詣慣行の実態。日時や場、形式、祈禱の規定と実際など。
- ② 参詣者の宇宙観・意識構造。神（アッラー）と聖者の「とりなし（執り成し）」を中心に。
- ③ 崇拜の対象とされた聖者達自身の検討。出身地・職業、その聖性の根拠を探る。
- ④ 墓地群の「場」としての象徴的在り方と「憑きもの」、「妖霊（ジン）」。
- ⑤ マムルーク朝政府等の支配権力と民衆との拮抗の構造、などである。

さらに以上の事柄から展開して、(1) イスラームの信仰一般と聖者崇拜・聖墓参詣との関係を探る。特に知識人層の大論争を射程に入れ

つつ。(2) シリア、イラク、北アフリカ等、他地域における聖者崇拜・参詣の実態との比較研究。(3) イスラーム教徒の聖者崇拜・参詣とエジプト少数派キリスト教徒（コプト教徒）のそれとの共時・通時的検討。(4) 聖墓参詣の衰退と現代の聖者生誕祭隆盛へ至るまでの歴史的变化。(5) ワクフ（寄進地）文書・裁判記録によって詳細な情報を総合する。（以上、具体的「研究実績の概要」省略）

ii 一般調査研究

本年度は、特に、中央アジア・イスラム研究委員会、明代史研究委員会を中心に調査研究を行った。（研究課題の後に付された●印は、文部省補助金事業費使用担当として主に重点的に行った事業を表わす。）

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】『東洋文庫所蔵梅原考古資料目録 Ⅲ 一日本之部・中国之部一』の作成。

古代史研究委員会

【資料の整理】① 中国都市研究会の開催。（前年度の継続）

② 東洋文庫所蔵中国画像名、造像名、墓碑銘拓本の整理研究。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。

② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献の公開、および情報の提供。

③ 『敦煌・吐魯番出土社会経済史関係文書集 Vol. Ⅳ—社文書—（A）Texts』の編集・刊行。

④ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード（目録補遺）の補充。

⑤ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上、前年度の継続）

4月25日(土) 横張 和子 「アスターナ出土の錦と綾」

7月3日(金) 臺信 祐爾 「敦煌の四天王図像」

3月22日(月) 林 俊雄 「カザフスタンとイリ地区調査行」

宋代史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 宋史食貨志訳註，選舉志訳註の作成。（前年度の継続）
② 宋代研究文献目録及び速報の作成。
③ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成。

明代史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 『万曆野獲編』（元明史料筆記叢刊之一）を主として，明代社会経済に関する文献の講読・研究。（隔週，研究会の開催）
② 『千頃堂書目』索引の作成。◎ （なお，文部省国庫補助金事業「一般調査研究」費から，②の事業遂行のため資料11冊を購入した。）

清代史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 「東洋文庫所蔵満洲檔」の整理・研究。
② 『崇徳三年満文檔冊』の講読研究会の開催。（隔週，研究会の開催）（以上，前年度の継続）

近代史研究委員会*

- 【資料の整理・研究】 ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。
② 戦前期日本の中国調査資料の研究。

研究会の開催

- 10月5日(月) 夏井 春喜 「日本収蔵の地主関係簿冊の紹介と調査資料研究との関連について」
高橋 孝助 「近代初期の上海における日本人の営為——幾つかの報告書・案内書に見る」
③ 日中現代研究会の開催。
5月19日(火) 塚瀬 進 「満州事変前における奉天経済の変化と在奉日本商人」
7月10日(金) 藤井 昇三 「孫文と日本——<日中盟約>再考」
9月11日(金) 尾形 洋一 「京奉満鉄クロスについて」
11月20日(金) 林 明德 「日露戦争と中国」
1月29日(金) 中村 義 「大陸浪人について」
3月26日(金) 門間 理良 「国共内戦期の東北における中共軍の兵力動員工作」

日本研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題（Ⅱ）』以降の作成。
（前年度の継続）
② 日本関係洋書解題目録の作成。

朝鮮研究委員会

- 【資料の調査・研究】 ① 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。
② 漢字の朝鮮字音の研究・調査。

中央アジア・イスラム研究委員会

- 【資料の収集・整理、研究】 ① 『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。
② 『東洋文庫所蔵アラビア語・トルコ語文献目録（補遺）』の作成。●
③ イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。（以上、前年度の継続）
④ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。
⑤ イスラム社会の構造の研究。
⑥ 隊商貿易史の研究。
⑦ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会*

- 【資料の整理・研究】 ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
② チベット学に関する研究会の開催。（以上、前年度の継続）

南方史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 東洋文庫所蔵インド学関係資料（辻文庫図書）の整理とその分類目録及び索引の作成。
② 東洋文庫所蔵東南アジア学関係資料（ベラルデ文庫、荻原文庫の図書）の整理とその分類目録及び索引の作成。（以上、前年度の継続）

（なお、研究委員会名に*印の付した委員会の事業は、「iii 特別調査研究」の事業を別途に行っている。）

iii 特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目 的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会招聘のチベット人研究者（ゲールク派・デブン寺ゴマン学堂長 Kenpo of Gomang Datsang College）Tempa Gyaltzen 氏の協力の下に下記の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット選述蔵外文献解題目録編纂の資料として、各文献の奥書きを収集し解読、分析を進めた。
- ② 現代チベット語について口語資料を収集し、記述的研究を進めた。
- ③ トukkan『一切宗義』『ゲールク派』の章の邦訳・訳注を準備した。
- ④ トukkan『一切宗義』テキスト・索引を出版するための機械処理を進めた。
- ⑤ サキャ・パンディタ『論理学総論』に関する定期的研究会を開催した。
- ⑥ 『スタイン目録』注記篇の編集を進めた。
- ⑦ 『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』Vol. 4 の調査・編集作業を進めた。

2) チベット文献の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	78冊	126冊

3) 研究成果の刊行

- ① 『チベット論理学研究』第5巻 B 5 判 1 冊 （刊行済）
- ② 『西藏宗義研究』第六巻（「チヨナン派の章」） B 5 判 1 冊 （刊行済）
- ③ 『二巻本訳語釈』訳註（『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』Vol. 3） B 5 判 1 冊 （刊行済）
- ④ 『チベット特別調査研究年次報告』 A 5 判 1 冊 （刊行済）

近代中国特別調査研究（近代中国研究委員会）

【目 的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務（近代中国研究事務室において常時遂行）
- 3) 図書資料の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	951冊	111冊

- 4) 研究成果の刊行

① 『近代中国研究彙報』第15号 A 5 判 1 冊 （刊行済）

iv その他の研究助成金による事業

三菱財団人文科学研究助成金特別事業（宋代史研究委員会）

【課 題】 宋史食貨志の総合的研究 [研究代表者：中嶋 敏研究員]

【目 的】 宋史食貨志にかぎらず、歴代の正史食貨志は、国家財政をいかに運用するか、という観点より纏められたものであるから、それによって国民経済の実態を掴むことはできない。したがって、従来の中国经济史研究は、ともすると食貨志の活用を怠るところがあった。しかしながら、国家財政が国民経済に与える影響は軽視できないものであり、それを理解するためには、国家の理財観、具体的な財政政策を的確に把握しておくことが、まず求められる。宋史食貨志は、その要請に応じてくれる最良の書といえよう。日本においては嘗て、その翻訳が二三試みられ、最近中国において、歴代食貨志注釈の一部として宋史食貨志も数種類刊行されている。しかし我々の目指すものは、本文の一条ごとに徹底的に検討し、その詳細さでは類書の水準をはるかに超えようというものである。代表および研究協力者の所属した、中国歴代食貨志研究会は、昭和17年に『史記平準書・貨殖列伝訳註、漢書食貨志註』、昭和23年に『旧唐書

食貨志・旧五代史食貨志訳註』、更に昭和32年には『明史食貨志訳註』を、陸続刊行してきた。宋史食貨志については、昭和35年にその第一冊を刊行したが、諸般の事情により、ついに途絶えたまま今日に至ったのである。

しかし代表研究者を始めとする我々の経済史研究は継続されており、ここに一定の成果を見たので、宋史食貨志研究を再開し、所期の目的を達成するとともに、宋代財政運営の在り方を再検討しようとするものである。歴代食貨志のうち最大の分量を誇る、本書の訳註を完成させ、宋代財政の全体像を浮き彫りにすることができるならば、前後の王朝のそれと比較研究することにより、中国史上の国家財政および万般の経済諸事象を通観することが可能となり、中国史研究への寄与は多大であると確信するものである。

- 【事業】 (1) 平成4年度は、既刊の『宋史食貨志訳註』(一) (食貨志(上)巻1～3) を承けて、平成3年度の(上)巻4「屯田」・「常平義倉」、巻5「役法(上)」巻6「役法(下)」・「振恤」の訳註稿完了につづけて、
- ① 宋史食貨志(下)巻1「会計」の財政収支を概観した部分について、『宋会要輯稿』『続資治通鑑長編』『建炎以來繫年要録』等の文献により、関係資料を抽出し、現在の研究成果をふまえて、詳細な訳註を作成する。以下、同じような方法により作業をすすめた。
 - ② 巻2・3「錢幣」「会子」は、貨幣制度に関する部分。
 - ③ 巻4～6「塩」「茶」は、専売収入の大宗に関する部分。
 - ④ 巻7「酒」「坑冶」「鑾」「香」は、酒の専売、鉱山資源とその活用、明鑾・香料の販売等に関する部分。
 - ⑤ 巻8「商税」「市場」「均輸」「互市舶法」は、営業税、流通税、ギルド・物価の統制、海外貿易等に関する部分。
- (2) 以上、宋史食貨志下巻1～8の、宋代の貨幣制度及び国家財政に関する部分を、代表及び協同研究者が分担し、各自訳註稿を作成中である。また絶えず研究会を開催し、相互点検の場として行った。
- (3) 随時、内外各地の学会に出席し、新しい研究の動向を探り、また資料収集にあたり、相互に情報を交換する。そのため平成4年度は、協同研究者の柳田節子が、北京の中国社会科学院歴史研究所には、所長李学勤、前所長陳高華を、また北京大学には張希清、鄧小南の諸氏を訪問し、情報の交換を行った。
- (4) 各自の訳註原稿は2ヵ年で完成させることとするが、そのために宋

史食貨志上・下全体に亘る問題を検討し、且つ総括することとしている。以上、訳註その他の原稿は完成次第、順次パソコンに入力し、プリントアウトして相互の検討に委ねることとし、訳註稿の完成をめざしている。

【課 題】「中東イスラム世界における政治権力と宗教：総合研究」[研究代表者：小松 久男研究員]

【目 的】 中東イスラム世界における政治権力と宗教との相互関係は、中東イスラム史を貫く重要な研究課題の一つである。イスラムはその成立以来この地域の政治と社会、文化を強く規定してきたが、イスラムと政治権力との相互関係は、時代と地域によりかなり異なった様相を呈している。もとより、中東イスラム世界はイスラム文明を共有しながらも、現実には多様な世界であり、大きくアラブ、イラン、トルコの三文化圏に分けることができる。本研究はまず、このような地域文化的な差異と共通性とを地域ごとの個別研究と相互の比較研究とによって明らかにしようとする。そのためには東洋文庫中央アジア・イスラム研究室のメンバー以外にも内外に広く協同研究者を求め、本研究を総合研究として展開することが必要となる。同研究室は過去15年にわたって「イスラム国家論研究会」を組織、運営してきたが、本研究はこの実績をふまえて日本における中東イスラム史研究のさらなる進展に寄与するはずである。さらに、中東イスラム地域が現代世界の焦点となっている現在、この地域における国家と宗教とのありかたを歴史的なパースペクティブの中で検討しようとする本研究はきわめて現代的な意義をもつことになるであろう。

【事 業】 本研究の計画は以下の3点をその骨子としている。

(1) 研究グループと研究会の組織・運営

研究の実施にあたっては、東洋文庫中央アジア・イスラム研究室の研究員が中心となり、いくつかのサブテーマについてつねに地域間の比較が可能な研究グループを組織し、これが個々に研究会を開催するほか、年度ごとにシンポジウムを開いて成果を検討した。各々に参加したサブテーマとグループ代表者は次のとおりである。

a) 権力構造の特質：佐藤次高（アラブ史）、永田雄三（トルコ史）
——権力の中核および地方の地域社会、これら双方の視点から分析した。

- b) 都市からの展望：清水宏祐（アラブ史）、三浦 徹（アラブ史）
——さまざまな集合の場および交点としての都市からの分析を試みた。
c) イスラムと近代：小松久男（トルコ史）、八尾師誠（イラン史）
——近現代の立憲思想あるいは集団アイデンティティの側面から分析した。

これらの研究会には国内の研究者のみならず、外国からの訪問研究者も随時受け入れながら幅広い研究活動を展開した。

(2) 研究資料の収集と情報の交換

東洋文庫は日本における中東イスラム史に関する研究資料のセンターであるが、欧米はもとより最近の中東諸国における史料や研究成果の公刊は年を追うごとに増加しつつある。これらの現地語資料を確実に収集することの重要性はあえて指摘するまでもないが、そのためには特別の予算を必要とする。設備備品費として図書費を計上したのはそのためである。また、効率的な資料の収集をはかるためには、研究者や研究機関相互の情報交換が不可欠である。今回はさしあたり共同研究者間の情報ネットワークの構築をはかることにとめた。

(3) 研究成果の発表

本研究の成果は東洋文庫和文紀要『東洋学報』、あるいは同欧文紀要Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunkoなどに適宜発表していくこととする。

生化学工業株式会社寄付金特定事業（南方史研究委員会）

【事業名】 東南アジア研究資料収集整理プロジェクト [プロジェクト代表者：
山本 達郎研究員]

【期 間】 平成元年度～同6年度（6ヶ年計画）

【目 的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当弥氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するため、その研究資料を収集・整理し、研究者に公開することを目的とする。

- 【事 業】 1) ヴェラルデ文庫：一切の作業（分類整理、登録、配架まで）を終わり、解題つき文献目録の版下も完成した。
2) モリソン2世文庫：オランダ語本を含めて、全108箱のほとんどす

べてを整理し、カード化を終わった。

3) 本年度は、アメリカのNewberry Libraryより、フィリピン関係の史料を若干マイクロフィルムで購入し、その一部を焼き付した。

4) 萩原文庫(ビルマ語本)の一部を整理し、手書きの目録を作成した。

榎一雄記念特定事業

【事業名】 榎一雄記念事業プロジェクト [プロジェクト代表者：河野 六郎研究員]

【期 間】 平成2年度～同6年度(5ヶ年計画)

【目 的】 本プロジェクトは榎家よりの寄付金1億円を以て、同家より寄付された故榎一雄博士旧蔵書の整理を行い、その目録を作成、刊行する。

【事 業】 1) コンピュータのソフトを作る準備を行った。

2) 榎文庫の整理は前年度に引続き行った。その中、

a) 雑誌については、和漢書雑誌は510タイトル、洋書雑誌は231タイトルのカードを作成した。

b) 単行本については、平成4年度までに累計和漢書8,000冊、洋書3,500冊のカードを作成した。

v 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。平成4年度の各研究委員会に所属する研究員、委員は以下のとおりである。

第1部 中国研究

東亜考古学：関野 雄

古代史：宇都木 章，越智重明，太田幸男，茂澤方尚

唐代史(敦煌文献)：池田 温，菊池英夫，土肥義和，藤枝 晃，松本 明
荒川正晴，王 冀青，

宋代史：草野 靖，佐伯 富，斯波義信，竺沙雅章，千葉 熈，中嶋 敏
柳田節子，渡辺紘良

明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，和田博徳，渡辺 宏
南 炳文

近代中国：市古宙三，滋賀秀三，田中正俊，本庄比佐子，矢澤利彦，趙 軍
張 士陽

第2部 日本研究

日本：石塚晴通，上野英二，海野一隆，亀井 孝，酒井憲二，佐竹昭広
田中時彦，枅尾 武，鳥海 靖，宮崎修多，柳田征司，山口謡司

第3部 東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：石橋崇雄，岡田英弘，加藤直人，神田信夫
C. A. ダニエルス，中見立夫，松村 潤
朝鮮：河野六郎，武田幸男，古屋昭弘，森岡 康，山内弘一

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村 坦，片山章雄，後藤 明，小松久男，佐藤次高
清水宏祐，志茂碩敏，部 勇造，杉山正明，永田雄三
花田宇秋，本田實信，三浦 徹，護 雅夫，八尾師 誠
大稔哲也，張 承志，松田俊道，托和提
チベット：川崎信定，北村 甫，立川武蔵，福田洋一，星 実千代，松濤誠達
御牧克己，山口瑞鳳，テンパ・ゲルツェン

第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄，池端雪浦，石井米雄，小名康之，風間喜代三，後藤均平
原 實，三根谷 徹，山崎元一，山本達郎

2. 学 術 図 書 出 版

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』第74巻第1・2号 平成5年2月刊 A5判 233頁

『東洋学報』第74巻第3・4号 平成5年3月刊 A5判 254頁

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko” No. 50 1992年刊

B 5 判 177頁 + 1 Plate

東洋文庫各種研究委員会刊行物

チベット研究委員会

『チベット論理学研究』 第5巻 平成5年3月刊 B 5 判 97頁

『西藏宗義研究』 第六巻 (「チヨナン派の章」)

『二巻本訳語釈』 訳註 (『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』 Vol. 3)

『チベット特別調査研究年次報告』

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』 第15号 平成5年3月刊 A 5 判 113頁

清代史研究委員会 (平成4年度特別研究資料出版)

『鑲紅旗檔—乾隆朝2—』 平成5年3月刊 B 5 判 140頁 + 4 Plates

東洋文庫諸目録・其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録』 第40号 平成5年3月刊 B 5 判 79頁

『東洋文庫書報』 第24号 平成5年3月刊 A 5 判 94頁

『東洋文庫年報』 (平成3年度版) 平成5年3月刊 A 5 判 98頁

『東洋文庫要覧1993・94』 (英文編) 平成5年3月刊 A 4 判 25頁

『Tun-huang and Turfan Documents concerning Social and Economic History VI
[Club She and related Documents (A) Introduction & Texts]』 (『敦煌・吐魯番
文書社会経済史資料集第4巻 (A) 解説編』) 平成5年3月刊 A 4 判 259
頁 (唐代史 [敦煌文献] 研究委員会担当事業)

『三国志に記された東アジアの言語および民族に関する基礎的研究』 (平成2・
3・4年度文部省科学研究費補助金・一般研究(B)研究成果報告書) 平成5年
3月刊 B 5 判 126頁 + 1 Plate

『東南アジア・南アジア史研究資料の基礎的研究』 (平成3・4年度文部省科学
研究費補助金・一般研究(A)研究成果報告書) 平成5年3月刊 B 5 判 299頁

『Catalogue of the TSUJI NAOSHIRO Collection in the Toyo Bunko(3)』 平成
5年3月刊 B 5 判 106頁

『Index of Catalogue of the TSUJI NAOSHIRO Collection(1)(2) in the Toyo
Bunko』 平成5年3月刊 B 5 判 41頁

『Catalogue of the OGIWARA HIROAKI Collection in the Toyo Bunko』 平

成 5 年 3 月刊 B 5 判 67 頁

『Catalogue of the Toyo Bunko Publications』 平成 5 年 3 月刊 B 5 判 65 頁

3. 講演会

春期 東洋学講座（共通テーマ；東南アジアの民族・宗教・国家）

第409回 平成 4 年 5 月 19 日(火)

「民族・宗教の多様性の中のイスラーム

—インドネシア・マレーシアの場合—」

東京大学教授

関本 照夫氏

第410回 平成 4 年 5 月 26 日(火)

「『宗教の擁護者』としての国王

—タイ国における民族と宗教—」

東洋文庫研究員
上智大学教授

石井 米雄氏

第411回 平成 4 年 6 月 2 日(火)

「『国民国家』への挑戦

—フィリピンのカリクリスト教とイスラーム—」

東洋文庫研究員
東京外国語大学
教授

池端 雪浦氏

秋期 東洋学講座（共通テーマ；中国近代の社会・家族・女性）

第412回 平成 4 年 10 月 13 日(火)

「1930年代におけるフェミニズム論争」

駿河台大学教授

前山加奈子氏

第413回 平成 4 年 10 月 20 日(火)

「中国近代における華北農村の人々」

神奈川大学教授

小林 一美氏

第414回 平成 4 年 10 月 27 日(火)

「近百年における中国女性労働」

上智大学教授

リンド・
グローブ氏

特別講演会（不定期）

第 1 回 平成 4 年 4 月 18 日(土)

「Islamic Historiography in Southeast
Asia ; Did it exist?」

Lecturer, Univ. of
Brunei Darus-
salam

I. A.
Mansurnoor 氏

- 第2回 平成4年6月23日(火)
「スタイン氏第四回中央アジア探検
(1930~'31)の研究」
中国蘭州大学 王 冀青氏
専任講師
- 第3回 平成4年11月6日(金)
「Taiwan's recent political
democratization」
Scholar-curator,
The Hoover
Institution R. H. Myers 氏
- 第4回 平成4年11月13日(金)
「朱元璋の詔令」
中国社会科学院歴
史研究所前所長 陳 高華氏
- 第5回 平成4年11月20日(金)
「ロシアにおける敦煌及び中央アジア
出土文書の研究」
ロシア科学アカデ
ミー東洋学研究
所ペテルスブル
グ支所極東文献
部長 L. N.
メンシコフ氏
- 第6回 平成4年12月11日(金)
「永楽期の徙民政策—河北広宗県の場合—」
中国南開大学
歴史研究所教授 南 炳文氏
- 第7回 平成4年12月14日(月)
「Rethinking Modern China's Econo-
mic History ; From Marx to Malth-
us and Smith」
Prof., Univ. of
California
(Irvine Campas) R. Bin Wong 氏
- 第8回 平成5年2月5日(金)
「Islam as Proto-Nationalism in the
Ottoman Empire, 1876-1909」
Associate Prof.,
Univ. of the
Bosphorus Selim
Deringil 氏
- 第9回 平成5年3月24日(水)
「山東省地域の新石器時代
—泗水尹家城の発掘をめぐって—」
中国山東大学
考古系教授 蔡 鳳書氏

4. 研 究 会 (東洋文庫談話会)

・平成5年2月23日(火)

「唐代安西・北庭地域の長行坊と帖馬
制度—TAM506号墓文書の検討を
中心にして—」

東洋文庫奨励研究員 荒川 正晴氏

・平成5年3月8日(月)

「セント・カテリーヌ修道院文書をめ
ぐる諸問題」

東洋文庫奨励研究員 松田 俊道氏

・平成5年3月15日(月)

「韓非子に見える慎到の勢論の再検討」

私学内地研修員
駒沢大学専任講師 茂澤 方尚氏

5. 研 究 者 養 成

中央アジア研究 荒川 正晴

「唐代中央アジア地域の都市と交通の
研究」

西アジア研究 松田 俊道

「セント・カテリーヌ文書にもとづく
ズィンミーの研究」

中国研究 張 士陽

「18・19世紀台湾における地域社会の
形成」

6. 学 術 情 報 提 供

i 研究者の交流および便宜供与のサービス

1) 国内研究者の受入

山崎 元一 国学院大学文学部教授

「古代インド史研究のための資料調査」
(平成4年度1ヶ年間) (国学院大学の依頼)

茂澤 方尚 駒沢大学文学部講師

「韓非子版本の研究—四部叢刊本について—」
(平成4年度1ヶ年間) (駒沢大学の依頼)

大稔 哲也	日本学術振興会 特別研究員	「中世イスラーム社会における聖者崇拜・聖墓参詣に関する歴史学的研究」(平成4年度以降2ヶ年間)
-------	------------------	---

2) 外国人研究者の受入

南 炳文	南開大学 歴史研究所教授	「明代日中友好交流の研究」(日本学術振興会の招聘) 平成4年度90日間 [4年10月10日～5年1月7日]
------	-----------------	--

Tempa Gyaltzen	東洋文庫招聘研究員	「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」(平成元年5月以降招聘中)
----------------	-----------	---

趙 軍	華中師範大学 歴史研究所副教授	「辛亥革命時期における日中関係史—特に孫文と日本の関係を中心にして—」(平成2年9月以降3ヶ年間・私費)
-----	--------------------	--

張 承志	中国作家協会理事	「中国イスラームに関する共同研究」(平成2年11月以降2ヶ年間・私費 [平成4年11月16日帰国])
------	----------	---

Rebiya Tohti	中国全国人民代表大会 民族委員会少数民族 問題議案委員	「ウイグル族の歴史と文化」(平成3年度以降2年7ヶ月間・私費)
--------------	-----------------------------------	---------------------------------

王 冀青	中国蘭州大学 歴史系講師	「敦煌及び東トルキスタン出土文献の総合研究」(日本学術振興会の招聘) 平成3年7月以降10ヶ月間及び2ヶ月間延長・私費(平成4年6月帰国)
------	-----------------	---

3) 研究者の派遣

4) 外国人研究者への便宜供与

Australia

Mark Elvin	Prof., Research School of Pacific Studies, Australian National Univ.
------------	---

Brunei

I. A. Mansurnoor	Lecturer, Dr., Univ. of Brunei Darussalam.
------------------	--

China (People's Republic)

汪 孝海	大連図書館副館長
周 聿峨	暨南大学華僑研究所副所長

方連慶	北京大學國際政治系教授
陳峰君	〃 〃 〃
林代昭	〃 〃 〃
邱恩田	〃 〃 副教授
王曉秋	〃 歷史系教授
程万里	〃 日本研究中心顧問，教授
何茲全	北京師範大學歷史系教授
郭良玉	〃 〃 〃
周年昌	中國社會科學院歷史研究所副所長，副研究員
胡一雅	〃 〃 研究員
王銓欣	〃 〃 圖書館主任，副研究員
孫新	〃 〃 副處長
李薇	〃 外事局重非處處長
宋德金	〃 中國社會科學雜誌社主任
阮芳紀	〃 〃 副主任
鄭家棟	天津·南開大學哲學系副教授
熱比亞	中央民族學院圖書館司書
戴慶廈	〃 教授
項美珍	〃 (教官)
胡軍	〃 (〃)
唐力行	安徽師範大學歷史系副教授
王炳華	新疆文物考古研究所所長
王路力	新疆社會科學院編輯部
王博	新疆維吾爾自治區博物館研究員
南炳文	天津市南開大學歷史研究所所長，教授
承載	上海社會科學院歷史研究所助理研究員
丹珠昂奔	中央民族學院藏學研究所副所長
陳高華	中國社會科學院歷史研究所前所長，研究員
蔡鳳書	山東大學考古學研究主任，教授
周一川	〃 歷史系專任講師
葛劍雄	上海復旦大學中國地理研究所教授
徐芸圃	北京中國第一歷史檔案館研究員
朱淑媛	〃 〃 (〃)
李良志	北京中國人民大學教授
劉志琴	中國社會科學院近代史研究所研究員

- 李 長莉 中国社会科学院近代史研究所副研究員
- China (Taiwan)
- Nicholas Koss 輔仁大学英国語文学系教授
- 姚 榮松 台湾師範大学国文系教授
- 林 慶彰 中央研究院中国文哲研究所副研究員
- 林 美容 〃 民族学研究所 (研究員)
- 何 清欽 国立高雄師範大学教授
- Egypt
- Ezzai A. Khattab Prof., Dr., College of Arts, King Saud Univ.,
Riyad.
- Fayza M. H. Haikal Prof., American Univ. in Cairo.
- Ethiopia
- Merid Wolde-Aregay Prof., Addis Ababa Univ.
- France
- 小杉恵子 パリ国立図書館司書
- Michel Cartier Prof., Ecole des Hautes Etudes en Sciences
Sociales.
- Hong Kong
- John J. Deeney 香港中文大学人文科学研究所比較文学研究科
教授
- Italy
- Bianca Maria Scarcia Prof., Faculty of Letters and Philosophy,
Univ. of Roma.
- Maria Teresa Orsi Prof., Faculty of Letters and Philosophy,
Univ. of Roma.
- Korea
- 全 淳東 忠北大学校師範大学歴史教育学科副教授
- 権 泰煥 Seoul 大学校地域綜合研究所所長, 教授
- 南 星祐 韓国外国語大学校教授
- 崔 柄憲 Seoul 大学校人文大学国史学科教授
- 金 成中 韓国国史編纂委員会委員
- 李 南聖 〃 〃
- 申 延澈 成均館大学校歴史系教授
- 閔 丙勲 中央大学校
- 趙 柄学 〃

金 東巖	中央大学校
黄 銀英	〃
曹 福鉉	〃
金 文	〃
全 海住	東国大学校教授
李 泰鎭	Seoul 大学校人文大学国史学科教授
權 泰煥	〃 〃 社会学科教授
安 春培	釜山女子大学校国史教育科教授

Hong Kong

Chan Kai-yin	Demonstrator, Department of History, Univ. of Hongkong.
--------------	---

Mongolian People's Republic

Shagdaryn Bira	Dr., Prof., Secretary-General International Association for Mongol Studies, Academician of the Mongolian Academy of Sciences, Ulaanbaatar.
----------------	--

Netherlands

B. C. A. Walraven	Associate Prof., Dr., Dept. of Japanese and Korean Studies, Leiden Univ.
Hans Daiber	Prof., Dr., Vrije Univ (Free Univ. Amsterdam).

Russian Federation

Lev N. Menshikov	Chief Scientific Fellow, Department of Far Eastern Textology, Institute of Oriental Studies (St. Petersburg), Russian Academy of Sciences.
Leonid I. Chuguyevsky	Senior Research Worker, Specialization Tun-huang Studies, Institute of Oriental Studies (St. Petersburg Branch), Russian Academy of Sciences.

Thailand

Aurathai Wareesa-ard	Librarian, The Central Library, Srinakharinwirot Univ.
Pinya Suwonachai	Librarian, Siam Society Library.

Turkey

Mücteba ilgürel	Prof., Dr., Fen-Edebiyat Fakültesi, Marmara Univ., Istanbul.
Selim Deringil	Associate Prof., Dr., Univ. of the Bosphorus.

Selcuk Esenbel	Associate Prof., Department of the History, Univ. of the Bosphorus.
U. K.	
G. W. Show	Librarian, British Library.
S. Joseph	Univ. of Cambridge.
U. S. A.	
David D. Buck	Prof., Dr., Dept. of History, Univ. of Wisconsin.
H. I. Pai	Assistant Prof., Dept. of History, Univ. of California, Santa Barbara.
Noriko Kamachi	Prof., Univ. of Michigan.
P. C. Forage	〃 〃
Ramon H. Myers	Dr., Curator-Scholar East Asian Collection, Hoover Institution.
James A. Millward	Assistant Prof., Dept. of History, Univ. of Arizona.
R. Bin Wong	Prof., Univ. of California, Irvine.
Mark Halperin	Ph.D. Candidate, Univ. of California, Berkeley.
P. Chirapravati	Ph. D. Candidate, Cornell Univ.

ii 研究会等への会場提供サービス

数量／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	35	33	25	38	12	22	21	24	21	18	11	26	286回
参 加 人 数	330	530	214	247	55	134	334	257	184	117	113	279	2,794人

iii 研究資料の覆刻・増刷・刊行サービス

東洋学報 第73巻 3・4号	500部
東洋学報 第74巻 1・2号	500部
吐魯番・敦煌出土漢文文書研究文献目録	500部
宋史選舉志譯註(一)	350部
近代中国研究彙報 第14号	70部
東洋文庫欧文紀要 第49号など5種	各50部

iv 参考情報提供サービス

- 1) 『東洋文庫年報』平成3年度版 A5判 1冊 (刊行済)
- 2) 『東洋文庫要覧 1993/1994年(英文編)』 A4判(カラー印刷) 1冊 (刊行済)
- 3) 『Tun-huang and Turfan Documents concerning Social and Economic History IV [Club She and related Documents(A)Introduction & Texts]』 (『敦煌・吐魯番文書社会経済史資料集第4巻(A)解説編』) A4判 1冊 (刊行済)
(上記の出版については、2.「学術図書出版」に一括されているのでご参照されたい。)

※なお、《6. 学術情報提供》における「図書資料の閲覧(協力)サービス」、「研究資料複写サービス」の事業報告については、『Ⅰ. 図書事業』の条項に便宜上掲載した。また、同じく「特定研究資料の収集」、「研究資料の補修再製本・製本」については、平成4年度とくに報告することはない。

7. 職員の研究業績

期間：平成4年4月1日～平成5年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

荒川 正晴

③「唐代駅伝制度の構造とその運用」（吐魯番出土文物研究会報79～83，1～4・1～8・1～8・1～5・1～6頁，吐魯番出土文物研究会，1992年8月～12月，「吐魯番・烏魯木齊周辺の史跡について」（内陸アジア史研究7・8，66～93頁，内陸アジア史学会，1992年10月），⑤「錢伯泉「從祀部文書看高昌魏氏王朝時期的祆教及粟特九姓胡人」」（吐魯番出土文物研究会会報78，6頁，吐魯番出土文物研究会，1992年7月），「魯才全「唐代前期西州的驛馬驛田驛牆諸問題——吐魯番所出館驛文書研究之二——」」（吐魯番出土文物研究会会報81，8頁，吐魯番出土文物研究会，1992年10月），「宋傑「吐魯番文書所反映的高昌物価与貨幣問題」」（吐魯番出土文物研究会会報83，6～8頁，吐魯番出土文物研究会，1992年12月），⑥「王素「『吐魯番出土文書』図版釈文対照本・第一冊」」（吐魯番出土文物研究会会報74，5～6頁，吐魯番出土文物研究会，1992年3月），「王炳華「樓蘭考古の新収獲」」（内陸アジア史研究7・8，38～40頁，内陸アジア史学会，1992年10月），⑦「“鄯落”（驛馬，ulaγ）考」（蘭州首届中国絲綢之路節・絲綢之路国際學術討論会，1992年9月8日），⑧「南疆遺跡參觀報告」（内陸アジア史研究7・8，10～20頁，内陸アジア史学会，1992年10月）。

池田 温

②『古代を考える唐と日本』（吉川弘文館，1992年6月，292頁），③「中国の史書と続日本紀」（『続日本紀3』新日本古典文学大系，615～667頁，岩波書店，1992年11月），「中国令と日本令——篇目と條文数をめぐって」（『周一良先生八十生日記念論文集』，472～484頁，中国社会科学出版社，1993年1月），「唐令」（滋賀秀三編『中国法制史 基本資料の研究』，東大出版会，203～239頁，1993年2月），④「1991年国際隋唐五代史討論会」（唐代史研究会会報5，15～17頁，1992年4月），「東大中国学会への期待」（中国社と文化7，246～258頁，1992年6月），「日本の唐史研究——近年の動向」（中国史学2，233～248頁，1992年10月），⑦「中国唐代の法律と日本古代の法律」（中国中日関係史学会報告，1992年9月19日，徐

一平口訳徐蒙整理, 中日関係史研究, 1993—1, 62~67, 74頁, 1993年2月), ⑧「「特別展曾侯乙墓」に寄せて」(日中文化交流502, 12頁, 1992年4月1日), 「敦煌学の現段階——「講座敦煌」の完結によせて」(聖教新聞1992年4月11日, 9面), 「着任のごあいさつ, 就任致辞」(北京日本学研究中心通説20号, 1992年5月), 「瀧川博士と中国法制史」(古代文化44巻11号, 26頁, 1992年11月), 「仁井田陞〈東洋学の系譜32〉」(月刊しにか3—11, 108~113頁, 大修館書店, 1992年11月), 「中日邦交正常化20周年の感想」(徐何東訳, 中日関係史研究1992—3, 9~10頁, 1992年9月)。

石井 米雄

②『東南アジアの歴史的位相』(辛島昇・和田久徳との共編, 東京大学出版会, 1992年, 306頁), 『タイの事典』(吉川利治との共編, 同朋舎, 1993年, 498頁), “Millenarianism in Asian History” (Institute of the Study of Languages & Cultures of Asia & Africa, 1993, Tokyo), ③ “Bangkok Laws and Their Provincial Vicissitudes——A Study of the Bangkok Dynasty” (Y. Tsubouchi (ed.), *The Formation of Urban Civilization in Southeast Asia, Supplement*, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, pp. 1—10, 1992), “Religious Developments in Southeast Asia, c. 1500—1800” (with Barbara Watson Andaya) (N. Tarling (ed.) *The Cambridge History of Southeast Asia*. Cambridge University Press, pp. 460—507, 1992), 「プラクラン考——「港市国家」の中核組織に関する覚え書き」(『上智アジア学』, 上智大学アジア文化研究所, 91~104頁, 1992)。

石橋 崇雄

②『鑲紅旗檔 乾隆朝2』(東洋文庫清代史研究委員会編, 1993年3月, 4+2+17+120頁, 東洋文庫), ③「中琉関係史研究と清朝満漢文檔案史料——『各科史書』所収の乾隆3年12月21日付けの題本をめぐる——」(『第四回琉中歴史関係国際学術会議論文集』, 1993年3月), 「兵部成語」(『清文備考』所収) 満洲語索引(A~E)——『六部成語』総合索引への一環として——(国士館大学情報科学センター紀要14, 25~37頁, 1993年3月), ⑦「中琉関係史研究と清朝満漢文檔案史料——『各科史書』所収の乾隆3年12月21日付けの題本をめぐる——」(第四回琉中歴史関係国際学術会議, 1992年11月21日), 「清朝満文檔案考——『丙子年四月秘録, 登ハン大位檔』をめぐる——」(東京外国語大学アジア・アフリカ研究所共同研究プロジェクト「東アジアの社会と国際環境」平成4年度シンポジウム: 清史研究と満文檔案, 1992年11月27日), ⑧「満洲語夜話㊦」(満

学協会会報3, 平成4年春号, 満学協会, 1992年5月), 「清朝=満族の社会と文化⑤——冰嬉図」(歴史と地理441, 山川出版社, 1992年5月), 「清朝=満族の社会と文化⑥——福陵」(歴史と地理444, 山川出版社, 1992年8月), 「清朝=満族の社会と文化⑦——合璧の額」(歴史と地理447, 山川出版社, 1992年11月), 「清朝=満族の社会と文化⑧——瀋陽・北京・承德」(歴史と地理450, 山川出版社, 1993年2月), 「東洋文庫清代史研究会」(満族史研究通信2, 1992年11月), 「『神田信夫先生古稀記念論集 清朝と東アジア』」(満族史研究通信2, 1992年11月), 「『鑲紅旗檔 乾隆朝2』」(満族史研究通信2, 1992年11月), 「神田信夫著『満學五十年』」(満族史研究通信2, 1992年11月)。

上野 英二

③「藤のうら葉のうらとけて」(『源氏物語講座 第三巻』, 勉誠社, 1992年5月, 254~266頁), ⑤「ちくま学芸文庫 佐竹昭広『下剋上の文学』解説」(筑摩書房, 1993年2月, 307~318頁)。

梅村 坦

⑦「トルコ民族の起源——内陸アジアでの展開——」(渋谷区教育委員会・社会教育館主催平成4年度歴史講座, 1992年6月4日), ⑧「北京のムスリム生活」(月刊しにか3—7, 38~43頁, 大修館書店, 1992年7月1日), 「モンゴル帝国形成を支えたトルコ族・ウイグル」(大モンゴル3, 87~89頁, 角川書店, 1992年8月30日)。

海野 一隆

③「『万国世界異形図』について」(ビブリア99, 20~33頁, 天理図書館, 1992年10月), 「いわゆる『根来寺伽藍古絵図』について」(月刊古地図研究23—8, 2~12頁, 日本地図資料協会, 1992年10月), 「『陝西四鎮図説』所載西域図略について」(東洋学報74—3・4, 1~37頁, 東洋文庫, 1993年3月), ④「東洋地図学史補遺」(科学史研究185, 1~5頁, 日本科学史学会, 1993年3月), ⑧「マテオ・リッチ世界図」(『国史大辞典』13巻, 186頁, 吉川弘文館, 1992年4月), 「ハーリ地図学史研究奨学金 The J B Harley Research Fellowships in the History of Cartography」(地図31—1, 53頁, 日本国際地図学会, 1993年3月)。

大稔 哲也

⑤「ダグラス・パットン著『バドゥル・アッディーン・ルウルウ——モスルのアタベグ1211—1259年——』」(イスラム世界39・40, 149~158頁, 日本イスラム協

会, 1993年3月)。

岡田 英弘

①『世界史の誕生』(筑摩書房, 1992年5月, iv+263頁), ②『札奇斯欽著 我所知道的德王和當時的内蒙古(二)』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1993年2月, 219頁), ③“The Third Dalai Lama and Altan Khan of the Tümed” (*Tibetan Studies, Proceedings of the 5th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Narita 1989, Volume 2*, pp. 643~652, 1992年8月), 「耶馬台国は存在しなかった」(歴史と旅19—17臨時増刊号, 42~51頁, 秋田書店, 1992年11月, 再録), “Mandarin, a language of the Manchus: How Altaic?” (*Aetas Manjurica*, Tomus 3, pp. 165~187. Otto Harrassowitz, Wiesbaden, 1992.), “The Yüan seal in the Manchu hands: The source of the Ch'ing legitimacy” (*Altaic Religious Beliefs and Practices, Proceedings of the 33rd Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Budapest June 24—29, 1990*, Research Group for Altaic Studies, Department of Inner Asiatic Studies, Eötvös Loránd University, pp. 267~270, 1992.), 「後書」(『札奇斯欽著 我所知道的德王和當時的内蒙古(二)』, 220~221頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1993年2月), 「蒙古襲来——なぜモンゴルは日本にきたか」(見る・読む・わかる・日本の歴史2 中世, 36~37頁, 朝日新聞社, 1993年2月), ④「蒙古文化国際学術研討会」(アジア・アフリカ言語文化研究所通信76, 35~40頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1992年11月), 「第35回国際アルタイ学会」(アジア・アフリカ言語文化研究所通信77, 22~30頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1993年3月), 「『文化』を三角測量する 川田順造著『西の風・南の風』」(文化会議280, 36~38頁, 日本文化会議, 1992年10月), “New book makes the Mongol Empire starting point of world history: Hidehiro Okada, *The Birth of World History (Sekaishi no Tanjō)*, 263pp. (in Japanese).” (*The Mongolia Society Newsletter*, n. s. No. 12, pp. 54~55, The Mongolia Society, 1992年9月), ⑦「人間の歴史Ⅱ チンギス・ハーン——モンゴル盛衰史1」(JAL シニアーズ・アカデミー, NHK 文化センター, 1992年4月8日), 「人間の歴史Ⅱ チンギス・ハーン——モンゴル盛衰史2」(JAL シニアーズ・アカデミー, NHK 文化センター, 1992年4月15日), 「人間の歴史Ⅱ チンギス・ハーン——モンゴル盛衰史3」(JAL シニアーズ・アカデミー, NHK 文化センター, 1992年4月22日), 「人間の歴史Ⅱ チンギス・ハーン——モンゴル盛衰史4」(JAL シニアーズ・アカデミー, NHK 文化センター, 1992年5月6日), 「人間の歴史Ⅱ チンギス・ハーン——モンゴル盛衰史5」

(JAL シニアーズ・アカデミー, NHK 文化センター, 1992年5月13日), 「人間の歴史Ⅱ チンギス・ハーン——モンゴル盛衰史6」(JAL シニアーズ・アカデミー, NHK 文化センター, 1992年5月20日), 「人間の歴史Ⅱ チンギス・ハーン——モンゴル盛衰史7」(JAL シニアーズ・アカデミー, NHK 文化センター, 1992年5月27日), “Chinggis Khan’s instructions to his kin in Blo—bzang—bstan—’dzin’s *Altan Tobči*” (蒙古文化国際研討会, 政治大学公企中心, 台北, 1992年5月30日), “The *bilig* literature in *Činggis Qa Yan—u Čadig*” (The Sixth International Congress of Mongolists, Ulaanbaatar, 1992年8月12日), “The Mongolian literary tradition in early Manchu culture” (The 35th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, 中央研究院學術活動中心, 台北, 1992年9月14日), 「世界史から見た中国と中国人」(三菱マテリアル社長室, 大手町ファーストスクエア19階, 1992年9月29日), 「世界史の誕生」(共同研究プロジェクト「アジア遊牧民の歴史と言語」研究会, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1992年10月12日), 「モンゴル帝国と現代世界」(古代を学ぶ会, 中野区勤労福祉会館, 1992年10月26日), 「モンゴルと世界史1 世界征服の「天命」——チンギス・ハーン」(朝日カルチャーセンター, 1993年1月12日), 「世界史の中のモンゴル1」(朝日カルチャーセンター横浜, 1993年1月13日), 「モンゴルと世界史2 中央ユーラシア草原にて——遊牧民の生活」(朝日カルチャーセンター, 1993年1月19日), 「モンゴルと世界史3 世界史以前の世界——中国と地中海の歴史」(朝日カルチャーセンター, 1993年1月26日), 「モンゴルと世界史4 トルコからモンゴルへ——遊牧帝国の成長」(朝日カルチャーセンター, 1993年2月2日), 「モンゴルと世界史5 モンゴル帝国の最盛期——13世紀～17世紀」(朝日カルチャーセンター, 1993年2月9日), 「モンゴルと世界史6 モンゴルの継承国家——特に中国とロシア」(朝日カルチャーセンター, 1993年2月16日), 「モンゴルと世界史7 新しい本物の「世界史」をどこに求めるか」(朝日カルチャーセンター, 1993年2月23日), ⑧『世界からみた現代東アジア』(エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 1～42頁, 国際関係基礎研究所, 1992年4月, 講演筆記), 「対談によるブックガイド『歴史』の本〈上〉」(本17—10, 8～13頁, 講談社, 1992年10月, 三浦雅士との対談), 「『遊牧の道』を行く3 二つの影 見失われた伝統と文化」(朝日新聞夕刊1992年10月5日, 4版, 8頁, 1992年10月5日, 談話), 「対談によるブックガイド『歴史』の本〈下〉」(本17—11, 32～38頁, 講談社, 1992年11月, 三浦雅士との対談), 「楊国家主席兄弟の『失権』NHK ニュースの『行方』」(週刊新潮37—49, 12月24・31日号51—54頁, 新潮社, 1992年12月24日, 談話), 「アメリカの「正義」と「狂気」 問題提起 「自由」と「民主主義」を旗印に暴走する危険はないか」(Sapio 5—3, 10～13

頁，小学館，1993年2月25日，談話要約），「世界史はモンゴルの賜 「歴史」の本」（この本がいい 対談による「知」のブックガイド，67～94頁，三浦雅士編，講談社，1993年3月，三浦雅士との対談，再録），「世界史の誕生」（アジア・アフリカ言語文化研究所通信77，51～53頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1993年3月，講演要旨），「男のおしゃれ」（月刊健康378，8～9頁，月刊健康発行所，1992年4月），「75字で働くエッセイ 新生モンゴル」（ざっくばらん19—9，10頁，並木書房，1992年9月，時評），「『表紙の写真について』モンゴルの『ボー』（巫，シャマン）のダンス」（アジア・アフリカ言語文化研究所通信7号，表紙裏，1992年11月，表紙写真の説明），「NHK スペシャル 大モンゴル 第1集 幻の王プレスター・ジョン」（NHK 総合テレビ，1992年4月12日午後9時～10時，監修），「NHK スペシャル 大モンゴル 第2集 蒼き狼 チンギス・ハーン」（NHK 総合テレビ，1992年5月10日午後9時～10時，監修），「NHK スペシャル 大モンゴル 第3集 世界征服への道」（NHK 総合テレビ，1992年6月14日午後9時～10時，監修），「NHK スペシャル 大モンゴル 第4集 大いなる都」（NHK 総合テレビ，1992年7月12日午後9時～10時，監修），「NHK スペシャル 大モンゴル 第5集 巨大国家の遺産」（NHK 総合テレビ，1992年8月2日午後9時～10時，監修）。

越智 重明

③「日・中の散楽——新猿楽記の出現をめぐる——」（久留米大学比較文化研究所紀要12，39～137頁，久留米大学，1992年10月），「前漢時代の商人」（久留米大学文学部紀要国際文化学科編1，114～134頁，久留米大学，1992年12月），「漢時代の免官，削爵」（久留米大学文学部紀要国際文化学科編2，1～22頁，久留米大学，1993年3月），「六朝の免官，削爵，除名」（東洋学報74—3・4，1～30頁，東洋文庫，1993年3月）。

風間 喜代三

①『印欧語の故郷を探る』（岩波新書，1993年2月，211頁），⑥D. クリスタル『言語学百科事典』（大修館書店，1992年4月，688頁）。

片山 章雄

③「突厥ビルゲ可汗の即位と碑文史料」（東洋史研究51—3，138～157頁，東洋史研究会，1992年12月），⑤「小長谷有紀著『モンゴル万華鏡』（週刊読書人1935，6面，（株）読書人，1992年5月），⑦「大谷探検隊90年——幻のコレクションをめぐる——」（京都新聞社主催，上山大峻・上野アキ氏と，杉山二郎氏司会，1992年

4月21日、要旨：京都新聞1992年5月2日朝刊12～13面）、「大谷光瑞上人と西域探検」（本願寺別府別院大谷記念館主催、1992年10月22日）、⑧「大谷コレクションが語るもの」（北国新聞1992年4月11日夕刊5面、富山新聞1992年4月13日8面、京都新聞社編『仏教東漸——シルクロード巡歴——』、320～325頁、京都新聞社、1992年8月）【以上は同内容、初出は平成3年度の⑧】、「大谷探検隊その後」（『あびこシルクロード・サークル十周年記念誌』、39～40頁、あびこシルクロード・サークル、1992年6月）、「羈縻州」（藤家禮之助編『アジアの歴史』、84～87頁、南雲堂、1992年6月）、「巻頭言 大谷記念館の充実に期待する」（大谷記念館誌1、1頁、本願寺別府別院大谷記念館、1992年10月）、「シルクロード——幻の都楼蘭への旅——」（監修、Newton 12—13、18～31頁、教育社、1992年12月）。

加藤 直人

②『鑲紅旗檔 乾隆朝2』（共編、東洋文庫清代史研究委員会、1993年3月、4 + 2 + 17 + 120頁、東洋文庫）、③Lobjang Danjin's Rebellion of 1723: with a Focus on the Eve of the Rebellion. (*Acta Asiatica*, No. 64, pp. 57～80, Toho Gakkai, Tokyo, 1992)、「入関前清朝の法制史料」（『中国法制史 基本史料の研究』、東京大学出版会、559～582頁、1993年2月）、⑦「關於中国第一歷史檔案館所藏〈逃人檔〉」（北京滿学學術討論會、1992年8月16日）、「The Rebellion of the Lobdzang Danjin and the Yung—cheng Emperor」（The 35th Permanent International Altaistic Conference, Sept. 14. 1992, Taipei.）「大興安嶺地区の民族——達斡爾族自治旗の滿文資料——」（細谷良夫氏と共同発表、滿族史研究会大会、1992年11月7日、於：明治大学駿河台校舎）、⑧「青海におけるチベット仏教寺院の現状と調査」（滿族史研究通信2、滿族史研究会、1992年11月）、「年羹堯奏摺索引」（文部省科学研究費補助金〔国際學術研究——學術調査〕「東アジア周辺部における諸民族と非漢民族の社会文化変容の比較研究〔研究代表者：中嶋幹起〈東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授〉〕研究成果報告書」1992年3月）。

神田 信夫

②『歴代宝案校訂本第三冊』（沖縄県立図書館史料編集室編、沖縄県教育委員会、6 + 585頁、1993年1月）、『鑲紅旗檔 乾隆朝2』（松村潤等と共編、東洋文庫清代史研究委員会、7 + 120頁、1993年3月）、『日本所在清代檔案史料の諸相』（東洋文庫清代史研究室、3 + 118頁、1993年3月）、③「日本に伝存する『清三朝実録』の来歴について」（『日本所在清代檔案史料の諸相』、3～13頁、東洋文庫清代史研究室、1993年3月）、⑦「満洲の国号をめぐる」（東北中国学会大会、東

北学院大学, 1992年5月30日, 要旨: 東方学会会報62, 13頁, 1992年7月), 「uksun考」(北京満学学術討論会, 北京 前門飯店, 1992年8月15日), “Correspondence between Hong Taiji and Mao Wen-lung” (The 35th Permanent International Altaistic Conference, 台北中央研究院, 1992年9月14日), 「北京満学学術討論会について」(第7回満族史研究会大会, 明治大学, 1992年11月7日), ⑧「退任にあたって」(明治大学広報324, 明治大学, 1992年4月1日), 「退任ごあいさつ」(駿卓ニュース6, 明治大学駿台卓球会, 1992年6月), 「推薦の辞」(山川出版社『世界史大年表』内容見本, 1992年10月)「『旧満洲檔を求めて——その1』」(満族史研究通信2, 1～3頁, 満族史研究会, 1992年11月), 「東洋史用語の解説」(『現代用語の基礎知識1993』1214～1220頁, 自由国民社, 1993年1月)。

後藤 明

①『イスラーム世界の歴史』(放送大学教材)(放送大学教育振興会, 1993年3月), ③「イスラーム世界の理念」(『古代史を語る』朝日選書450, 272～287頁, 朝日新聞社, 1992年5月), 「都市的に生きるということ」(『都市史のカレイドスコープ』文化科学高等研究院 ISLAno. 3, 116～125頁, 1992年8月), 「イスラームの共同体意識」(東洋学術研究129, 77～91頁, 1992年9月), 「イスラーム都市とは」(学術月報45—12, 日本学術振興会, 6～11頁, 1992年12月), 「イスラーム・パワーが世界を動かす」(現代1992年8月号, 114～129頁, 講談社), ⑤「『イスラームの都市性』研究プロジェクトによる研究書の紹介」(オリエント34—2, 167～172頁, オリエント学会, 1992年3月), ⑧『100問100答・世界の歴史2・中東・アフリカ』(歴史教育者協議会編, 105～111頁, 202～205頁, 河出書房新社, 1992年7月)。

後藤 均平

⑧「漂海録」(季刊青丘14, 23～25頁, 青丘文化社, 1992年11月), 「振天府」(季刊青丘15, 21～23頁, 青丘文化社, 1993年2月)。

小松 久男

① “20. Yüzyıl Başlarında Orta Asyada Türkçülük ve Devrim Hareketleri” (Ankara, 1993, 79pp.), ②藤家禮之助編『アジアの歴史』(南雲堂, 1992年6月, 担当部分: 「オスマン帝国と現代トルコ」277～295頁), 『内陸アジア』(地域からの世界史6)(朝日新聞社, 1992年7月, 担当部分: 「ロシア・ソ連と内陸アジア」179～201頁), ③「中央アジアの都市と民族問題」(学術月報45—4, 259～364頁, 1992年4月), 「中央アジア・再生への胎動と試練」(国際問題1992年5月号, 42～53頁), “The Turkic Federalist Party in Turkistan” (AACAR Bulle-

tin, Vol. 5, No. 1, Spring 1992, pp. 14~18.), ⑥「中央アジア現代史への問い：『永久のキャラヴァン』抄訳と解説」(海外事情1992年6月号, 2~16頁), M. A. アブドゥライモフ「ブハラのコシュベキ官房文庫研究序説」(西南アジア研究37, 19~57頁, 1992年), ⑦「トルコ非集権党について：二つの革命の間のトルキスタン」(日本中東学会第8回年次大会, 1992年5月10日, 慶応大学), 「ソ連解体後の中央アジア諸国：その歴史と現況」(国際大学中東研究所第11回IUJフォーラム, 1992年5月15日, 国際大学東京事務所), 「中央アジアの再生：ソ連解体のあとに」(松山市教育委員会・生涯学習講座, 1992年7月8日, 南海放送本町会館), 「中央アジアの現在と歴史研究」(第29回野尻湖クリルタイ, 1992年7月20日), 「ブハラ：中央アジアから現代を問いつける町」(上智大学社会人講座〈中東イスラム社会と都市 7〉1992年11月12日, 上智大学), 「中央アジアの歴史と現状：ウズベキスタンを中心に」(旧ソビエト地域の歴史と現状 朝日カルチャーセンター, 1992年11月14日), 「中央アジアの歴史と現在」(上智大学社会人講座〈中東イスラム社会と都市 8〉1992年11月19日, 上智大学), 「中央アジアの再生：ソ連邦解体の後に」(埼玉県高校社会科研究会歴史部会, 1992年11月27日, 岩槻高校), ⑧「中央アジア」(対談：小松久男・宇山智彦, 『世界の読み方が変わる本』(別冊宝島 153号) 108~119頁, 1992年4月), 「韃靼の志士」(本1992年10月号, 42~45頁, 講談社), 「露東協約」(UP 1992年11月号, 28~32頁, 東京大学出版会)。

佐藤 次高

②『戦火の4都市：エルサレム・ベイルート・バグダード・クウェート』(解説, 113~127頁, 第三書館, 1992年4月), ③「11~12世紀シリア地方社会の裁判官——トリポリとジャバラの場合」(オリエント34-2, 日本オリエント学会, 1~16頁, 1992年3月), ④“Recent Developments in Chinese Islamic Studies(2) : Survey of Research Institutions in Xinjiang, Shanghai, and Ningxia” (*Asian Research Trends*, No. 2, pp. 205~224, The Centre for East Asian Cultural Studies for Unesco, The Toyo Bunko, 1992.), “The Present Situation of Islamic and Middle Eastern Studies in Japan” (日本中東学会年報7, 445~455頁, 日本中東学会, 1992年3月), 「イスラム世界——西アジアを中心として」(『社会経済史学の課題と展望』12~21頁, 社会経済史学会, 1992年5月), ⑥「西アジア——イスラム国家論」(1992年史学会第90回大会・東洋史部会シンポジウム「アジア史研究における国家論の現状」, 東京大学, 1992年11月), 「スルタン・イブラーヒーム伝説の成立」(平成4年度九州史学会大会・公開講演, 九州大学, 1992年12月), ⑦「イスラム史理解のための視点」(京都府私学教育研修会, 近江八幡・五湖荘, 1992年10月), 「イスラム世界史をどう理解するか」(文部省高等学校地

理歴史科・公民科研修講座，群馬県利根郡水上町，1992年11月），「イスラム的発想とその背景」（富士通研修講座，富士通経営研修所，1993年2月），⑧「アラビア語を話すアホンたち——中国ムスリム地区を歩く」（月刊しにか3—7，8—12頁，大修館書店，1992年7月）。

酒井 憲二

②『寛永諸家系図伝 第十四』（校訂協力，続群書類従完成会，1992年9月，266頁），⑥「翻刻『甲陽軍鑑末書下巻之上』（調布日本文化3，105～138頁，調布学園女子短大，1993年3月）。

滋賀 秀三

②『中国法制史——基本資料の研究』（東京大学出版会，1993年2月，15+890頁），③「民商事習慣調査報告録」（滋賀秀三編『中国法制史——基本資料の研究』（807～833頁，東京大学出版会，1993年2月），“Custom as Source of Law in Traditional China”（*Recueils de la Société Jean Bodin pour l'histoire comparative des institutions*, vol. 53, pp. 413～425, Bruxelles, 1992），⑤「清明集研究会『名公書判清明集（懲悪門）訳注稿』《その1》《その2》」（法制史研究42号，法制史学会，1993年3月）。

杉山 正明

①『大モンゴルの世界——陸と海の巨大帝国』（角川書店，1992年6月，327頁），②デイヴィッド・モーガン著『モンゴル帝国の歴史』（大島淳子と共訳，角川書店，1993年2月，290+4頁），⑦「カラ・キタイは西遼のみを指す語か」（西南アジア史研究総会，講演，1992年12月5日）。

関野 雄

⑧「五十年前の北京を想う」（月刊しにか3—3，2～3頁，大修館書店，1992年3月），「玩物喪志の戒め」（弥生21，1～4頁，東京大学文学部考古学研究室談話会，1992年7月），総監修『紫禁城の遺宝・北京故宮博物院展』（1992年8月，東京都・東京都ルネッサンス推進委員会発行，133頁），「北京に飛ぶ宦官の人魂」（毎日新聞，1992年8月28日，夕刊，8面）。

武田 幸男

③「文献よりみた伽耶」（東京国立博物館編『伽耶文化展』，14～20頁，朝日新聞社刊，1992年6月），「中国最初期の廣開土王碑文研究」（同書刊行委員会編『西

巖趙恒来教授華甲紀念韓国史論叢, 75~94頁, ソウル, 亜細亜文化社刊, 1992年12月), 「蔚州書石谷における新羅・葛文王一族——乙巳年原銘・己未年追銘の一解釈」(東方学85, 1~23頁, 東方学会, 1993年1月), ④「その後の広開土王碑研究」(年報朝鮮学3, 1~19頁, 九州大学文学部, 1993年3月), ⑧「顔のない人物像の彼方——古代の環日本海路に連なる——」(歴史と地理447, 32~34頁, 山川出版社, 1992年11月), 「任那と加羅(伽耶)」(歴史と地理451, 31~34頁, 山川出版社, 1993年3月)。

C. A. ダニエルズ

③「明末清初における甘蔗栽培の新技術——その出現及び歴史的意義——」(『清朝と東アジア——神田信夫先生古稀記念論集』, 467~485頁, 山川出版社, 1992年3月), 「大陸部東南アジア北部への中国生産技術移転——民国期シブソーンパンナー僚族社会における製陶技術を事例に——」(歴史と地理441, 1~14頁, 山川出版社, 1992年5月), 「中国製糖技術の徳川日本への移転」(国際交流59, 75~85頁, 国際交流基金, 1992年9月), ⑤「郭金彬著『中国科学百年風雲』」(東方141, 32~35頁, 東方書店, 1992年12月), ⑧「漢民族の商魂」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所通信75, 42頁, 1992年7月), 「出家と出世」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所通信76, 14頁, 1992年11月)。

鶴見 尚弘

③「中国歴史博物館蔵, 万暦九年丈量の徽州府魚鱗冊一種」(『和田博徳教授古稀記念 明清時代の法と社会』565~591頁, 汲古書院, 1993年3月), ④「研究室便り第37回, 横浜国立大学におけるアジア学」(東方学会報63, 5~7頁, 1992年12月), ⑦「日本における明清社会経済史研究の現状」(大韓民国忠北大学校史学会講演, 1992年10月10日), 「日本における明清社会経済史の研究」・明代の魚鱗冊」(大韓民国中央大学校明清史研究会, 1992年10月17日), ⑧「万里の長城は月から見える」(Quark 1992年3月号, 82~93頁, 講談社), 「シルクロード氷河の謎」(Quark 1992年11月号, 82~93頁, 講談社)。

鳥海 靖

②『20世紀フォトドキュメント』第1巻政治・経済(編著, 〈株〉ぎょうせい, 1992年8月, 159頁), 『国史大辞典』第13巻(共編, 吉川弘文館, 1992年4月, 952頁), ③「伊藤博文か山県有朋か比較論断——明治の立憲政治を支えた開明派」(This is 読売3—11, 266~271頁, 読売新聞社, 1993年2月), ⑤「史料解説 伊藤博文文書『日本近代思想大系』別巻——近代史料解説・総目次・索引, 100

～106頁，岩波書店，1992年4月），「〈宮中の天皇〉から〈内閣の天皇〉へ——坂本一登『伊藤博文と明治国家形成——宮中の制度化と立憲制の導入——』を読んで」（文化会議276，22～25頁，日本文化会議，1992年6月），「書評 坂本一登著『伊藤博文と明治国家形成』」（週刊読書人1939，〈株〉読書人，1992年6月22日），⑦“Understanding Modern Japanese History”（*Understanding Japanese* 63, pp. 40～44, International Society for Educational Information, June 1992），⑧「国際化の中の歴史理解——日米歴史教科書共同研究の経験から——」（所報ふくしま106，2～4頁，福島県教育センター，1993年3月）。

中嶋 敏

③「南宋建炎対金使節について——宇文虚中のことなど——」（東洋研究106，1～28頁，大東文化大学東洋研究所，1993年1月）。

中見 立夫

②『内陸アジア（地域からの世界史，第6巻）』（間野英二ほかと共著，朝日新聞社，1992年，219頁），『鑲紅旗檔 乾隆朝2』（神田信夫，松村潤ほかと共編，東洋文庫清代史研究委員会，平成5年3月，写真4 + ii + xvii + 120頁），③“Prince Güngsügnorbu and Inner Monolia, in Transformation”（*Proceedings of the XXXIII International Congress for Asian and North African Studies [ZDMG Supple menta IX]*, edited by Albercht Wezler & Ernest Hammerschmidt (Stuttgart : Franz Steiner Verlag, 1992), pp. 197～198.），“Хятадын архивт байгаа 19—р зууны хойших Монголын түүхтэй холбогдох материал”，*Олон улсын Монголч эрдэмтний V их хурал I*，（Улаанбаатэр：Олон улсын Монгол судлалын холбоо，1992，96～98—р тал.），「海山与烏泰——博格多汗政權下の漠南蒙古人」（甘旭嵐訳，烏蘭校，内蒙古大学中共内蒙古地区党史・内蒙古近现代史研究所編『内蒙古近代史訳叢』第三輯，59～97頁，呼和浩特，内蒙古大学出版社，1991年 [1992年8月]），「巴布扎布及其叛乱」（曾尔慧訳，米济生校，同上書，119～133頁），⑤「書評：山崎柄根著『鹿野忠雄』」（信濃毎日新聞，1992年5月10日），⑦“Qaisan's Secret Letters from Urga”（蒙古文化国際學術研討会，1992年5月30日，台北，国立政治大学公共行政暨企業管理教育中心国際會議庁），“Some remarks on Mongolian historical sources”（UNESCO International Scientific Seminar : the Nomads and Central Asia and Silk Roads, 1992年8月3日，Ulaanbaatar, Ministry of External Relations.），“Хайсан Бээжингийн засгийн газартай ойртай ойртон шадарласан ину”（Олон улсын Монголч эрдэмтэдийн VI их хурал，1992年8月12日，Улаанбаатар，Соёлын тов

oproo.), “Japanese Researchers’ Search for Ch’ing—Manchu Sources in the Early Twentieth Century” (the 35th Permanent International Altaistic Conference, 1992年9月15日, 台北, 中央研究院學術活動中心), 「ユネスコ・シルク・ロード・プロジェクト《遊牧民の道》国際學術調査をめぐって」(〈古代北方ユーラシアの民族移動と気候変動〉研究会, 1992年12月18日), 「最近日本の満族史研究与中国東北地域史研究概況」(遼寧省社会科学院歴史研究所座談会, 1993年2月9日), 「关于東北亞洲地区的社会変容与国際関係」(哈尔滨市社会科学院講演会, 1993年2月25日), ⑧『国史大辞典』第13巻[項目執筆](吉川弘文館, 平成4年4月, 3+952頁), 『南アジアを知る事典』[項目執筆](平凡社, 1992年10月, 933頁), 「ウランバートル(知的冒険の旅・シリーズ)」(SAPIO 4—23 [通巻83号], 40~41頁, 1992年11月12日), 「アジア・アフリカ言語文化研究所「東アジアの社会変容と国際環境」プロジェクト」(満族史研究会通信2, 4~9頁, 1992年11月), 「モンゴル研究 世界に窓」(朝日新聞, 1992年11月12日(夕刊)), 「はがき通信」(日本歴史537(平成5年2月号)127~128頁), 「プロフィール: ビラ/Shagdaryn Bira/教授」(通信77, 9頁, 1993年3月25日), 「モンゴル文書史料とアルヒーフ」(『言語文化接触に関する研究』第6号[調査報告: 「中国周辺部における言語接触と社会文化変容——漢族文化と非漢族文化との相互関係——」](アジア・アフリカ言語文化研究所, 249~274頁, 1993年3月)。

藤枝 晃

②(監修)『旅順博物館所蔵品展図録』(京都文化博物館・京都新聞社編集・発行, 1992年12月, 176頁), ③“The Earliest Types of Chinese Buddhist Manuscripts Excavated in Turfan” (*Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hung.* Tomus XLIII(2—3), pp. 325~329, 1992, *Academiai Kiadó*, Budapest), 「旅順博物館展によせて」(上記『図録』, 19~24頁), 「西域学の課題」(『佛教東漸——シルクロード巡歴』, 326~331頁, 京都新聞社, 1992年8月), 「寧楽美術館の古印コレクションとの出会い」(『財団法人寧楽美術館のあゆみ略記』, vi~ix頁, 奈良 寧楽美術館, 1992年11月), ④「西北研究所での今西錦司」(アニメ241, 27頁, 平凡社, 1992年10月), ⑦「敦煌学とその周辺」(大阪府文化情報センター なにわ塾対話講座, 1992年9月3日, 10日, 10月7日, 22日, 11月5日), ⑧『敦煌』序(日本放送出版協会, 1992年4月), 「延寿命菩薩」(京都新聞, 1992年12月12日), 「騎馬女俑」(同12月16日), 「伏羲女媧図」(同12月24日), 「帰ってきた大谷コレクション」(中日新聞, 1993年3月11日夕刊)。

古屋 昭弘

- ③「『正字通』和十七世紀的贛方音」(中国語文1992—5, 339~351頁, 北京, 1992年9月), 「張自烈と『字彙辯』——『正字通』の成書過程——」(東洋学報74—3・4, 97~124頁, 東洋文庫, 1993年3月)。

御牧 克己

- ③ “The Intellectual Sequence of Ratnākaraśānti, Jñānaśrimitra and Ratnakirti” (*Asiatische Studien/ Études Asiatiques* XLVI・1, pp. 297—306, 1992), “Two Minor Works Ascribed to dBus pa blo gsal” (*TIBETAN STUDIES, Proceedings of the 5th Seminar of the International Association for Tibetan Studies [Narita. 1989].* pp. 591~598, Narita, 1992), “The Classification of the Yogācāra School in Tibetan Doxo—graphical Literature” (*Proceedings of the XXXII International Congress for Asian North African Studies, Hamburg. 25th—30th August 1986 [ZDMC—Suppl. 9].* pp. 215~216, 1992), ④「第六回国際チベット学会」(東方学85, 164—179頁, 東方学会, 1993年1月)。

宮崎 修多

- ①『学海日録』(第5巻)(学海日録研究会編, 岩波書店, 399頁, 1992年5月), 『学海日録』(第6巻)(学海日録研究会編, 岩波書店, 385頁, 1992年7月), ③「『新井白石日記』における夢とは何か」(国文学38—2, 102~105頁, 学燈社, 1993年2月), ⑦「茗讌図録の展開」(成城国文学会, 1992年7月4日), ⑧コラム「西国大名の文事・黒田長舒(筑前国秋月藩)」(西日本新聞, 1992年10月6日), コラム「西国大名の文事・黒田長房(続・筑前国秋月藩)」(西日本新聞, 1992年10月13日)。

護 雅夫

- ①『李陵』(改訂, 文庫版)(中央公論社, 1992年9月, 248頁), ⑦「アナトリア考古学の問題点」(トルコ発掘調査報告会, 1993年3月6日), ⑧「「学問の思い出」——三笠宮殿下を囲んで」(1992年7月3日, 神田学士会館)(『東方学』85, 187~203頁, 東方学会, 1993年1月)。

矢澤 利彦

- ①『西洋人の見た中国皇帝』(東方書店, 1992年5月, 230頁), ③「中国のカトリック文物」(東方139, 11~15頁, 東方書店, 1992年10月)。

柳田 征司

③「限定の意を表わす副助詞の変遷——方言分布と文献資料とから——」(日本語学, 118~130頁, 1992年5月), 「『修行者あひたり』型表現の来由」(『文化言語学——その提言と建設』文化言語学編集委員会編, 205~220頁, 三省堂, 1992年11月), 「桂林徳昌講一元光演聞書『古文真宝抄』彦竜周興講集聞書『古文真宝抄』について」(『続抄物資料集成10解説・索引』大塚光信編, 57~89頁, 清文堂, 1992年12月), 「抄物の世界」(『説話の講座3説話の場——唱導・注釈——』, 316~338頁, 勉誠社, 1993年2月), 「無名詞体言句から準体助詞体言句(「白く咲けるを」から「白く咲いているのを」)への変化」(愛媛大学教育部紀要第Ⅱ部人文・社会科学25-2, 11~36頁, 1993年2月)。

柳田 節子

③「宋代の県尉——土地問題に関連して——」(平成2・3年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書, 中嶋敏代表, 『宋より明清に至る科举・官僚制とその社会的基盤の研究』, 13~22頁, 東洋文庫, 1992年3月), 「宋代農家経営と營運——家業銭に関連して——」(唐代史研究会編『中国の都市と農村』, 471~498頁, 汲古書院, 1992年7月), ⑦「宋代の農家経営」(学習院大学史学会第8回大会記念講演, 1992年6月6日, 要旨: 学習院史学31, 133~138頁, 1993年3月), ⑧「停年退職にあたって」(学習院広報46, 1992年7月), 「『わだつみ』の世代を生きて」(215頁, 創文社, 1992年8月), 「天皇の中国訪問について」(『日中友好新聞』, 1992年10月5日号), 「思い出すことなど」(岩波講座『近代日本と植民地』第2巻折込み月報, 1992年12月)。

山内 弘一

③「朴趾源における北学と小中華」(上智史学37, 163~190頁, 1992年11月)。

山崎 元一

③「『マハーバーラマ』の王権論——シャーンティ=バルヴァンの記事への検討——」(国学院雑誌54-2, 21~42頁, 国学院大学, 1993年2月), 「『ジャータカ』の国王——その生涯と四住期説——」(『知の邂逅——仏教と科学, 塚本啓祥教授還暦記念論文集』, 佼成出版社, 193~206頁, 1993年3月), 「古代インドの王権論——仏典と『実利論』を史料として——」(東洋文化73, 1~39頁, 東京大学東洋文化研究所, 1993年3月), ⑦「アンベートカルの仏教」(岡山県同宗連第10回総会記念講演, 1993年2月27日)。

山根 幸夫

③「明代倭寇問題研究」(邱明訳, 黄淮学刊1992—1, 78~82頁, 河南省商邱師專, 1992年3月), 「八十年来日本の明史研究」(周紹泉訳, 中国史研究動態1992—4, 19~24頁, 中国史研究編輯部, 1992年4月), 「最近十年間日本の明史研究」(明代史研究20, 63~71頁, 明代史研究会, 1992年4月), 「八十年来日本の明史研究」(『民国以来国史研究的回顧与展望研討会論文集』641~652頁, 国立台湾大学歴史系, 1992年6月), 「中国の地方志について——県志を中心に」(歴史学研究641, 2~9頁, 歴史学研究会, 1993年1月), 「明・清の会典」(滋賀秀三編『中国法制史——基本資料の研究』, 435~472頁, 東京大学出版会, 1993年2月), 「井上翠と中国」(近代中国研究彙報15, 1~16頁, 東洋文庫, 1993年3月), ⑤「陳学文著『明清社会経済史研究』」(明代史研究20, 86~88頁, 明代史研究会, 1992年3月), 「李献璋著『長崎唐人の研究』」(東方140, 24~25頁, 東方書店, 1992年11月), 「中国史の側から見た日中関係史——佐久間重男著『日明関係史の研究』」(東方144, 18~20頁, 東方書店, 1993年2月), 「楊暘主編『中国的東北社会(十四~十七世紀)』」(東洋学報74—1・2, 96~102頁, 東洋文庫, 1993年2月), 「湯志鈞著『乘桴新獲——從戊戌到辛亥』」(東洋学報74—1・2, 102~109頁, 東洋文庫, 1993年2月), 「王春瑜著『明朝酒文化』」(東洋学報74—3・4, 191~197頁, 東洋文庫, 1993年3月), 「趙軍著『辛亥革命与大陸浪人』」(東洋学報74—3・4, 205~212頁, 東洋文庫, 1993年3月), ⑧「明史選舉志(武科挙)訳註稿」(中嶋敏編『宋より明清に至る科挙・官僚制とその社会的基盤の研究』, 71~78頁, 科研費研究成果報告書, 1992年3月), 「科挙関係文献目録稿・明代」(中嶋敏編『同上』, 91~94頁, 科研費研究成果報告書, 1992年3月), 「柳田節子さんと東洋史」(昀沫集7, 6~8頁, 昀沫集発行世話人, 1992年4月), 「孫祚民先生の逝去を悼む」(明代史研究20, 1~7頁, 明代史研究会, 1992年3月), 「編輯後記」(汲古21, 92~93頁, 汲古書院, 1992年6月), 「編輯後記」(汲古22, 64頁, 汲古書院, 1992年11月), 「1991年明代史論文目録」(明代史研究20, 113~115頁, 明代史研究会, 1992年3月), 「1991年韓国明清史論文要目」(明代史研究20, 116頁, 明代史研究会, 1992年3月)。

和田 博徳

⑦「明代の官僚と胥吏」(創価大学アジア研究所研究会, 1993年1月12日), 「シルクロードによる明帝国とオスマン=トルコ帝国との交渉史」(創価大学シルクロード講座, 1992年6月1日, 8日, 15日, 22日), ⑧「東洋史学と私——古稀の思い出——」(『和田博徳教授古稀記念論集 明清時代の法と社会』, 汲古書院, 1993年3月, 711~723頁), 「和田博徳履歴・業績目録」(『和田博徳教授古稀記念

論集『明清時代の法と社会』, 汲古書院, 1993年3月, 1~12頁)。

財団法人東洋文庫 特別講演会 開催略年表

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
S. 34年度			
11月21日	イラン発掘三十年	仏国イラン考古学 調査団々長	Ghirshman, R.
12月 5日	スワットおよびパキスタンにおける発掘	東洋文庫名誉研究員 Prof., Università degli Studi di Roma (Italy)	Tucci, Giuseppe
S. 35年度～S. 37年度			
S. 38年度			
11月 4日	最近のインド考古学界	Dir.-Gen. of Archaeo- logical Survey of India	Ghosh, A.
S. 39年度			
S. 40年度			
10月16日	内藤博士と考古学の諸研究—白鳥先生生 誕百年に因んで—	京都大学名誉教授 東洋文庫研究部研究 顧問	梅原 末治
S. 41年度			
5月30日	侯家荘の殷の台墓について	(前 出)	梅原 末治
5月31日	殷代の彫像	(〃)	梅原 末治
S. 42年度			
S. 43年度			
10年25日	近代国家としてのパキスタンの誕生		I. H. クレシ
2月28日	The Power of Truth in Ancient Indian Belief	Prof., Univ. of Pens- sylvania (U.S.A.)	Brown, W. Norman
S. 44年度			
10月31日	欧亜大陸北部を通じての東西文化交流	京都大学名誉教授 東洋文庫評議員	梅原 末治

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
2月17日	Some linguistic Problems in the Study of Tibetan	Prof. Emer., London Univ. (U. K.)	Simon, Walter
S. 45年度			
S. 46年度			
4月 2日	Trends of Iranian Studies in Europe and America	Prof. Emer., Univ. of Cambridge (U. K.)	Bailey, H. Waller
4月30日	Expansion of Indian Culture into Central Asia	(同上)	Bailey, H. Waller
10月15日	上古における日韓の文化交流	京都大学名誉教授 東洋文庫評議員	梅原 末治
11月11日	フランス中国学の現状と動向	Prof., Université de Paris VII (France)	Gernet, Jacque
S. 47年度			
11月22日	アメリカにおける中国および中国研究について	Prof., Fac. of Arts and Sci., Harvard Univ., Mass. (U.S.A.)	Fairbank, John King
S. 48年度			
5月 8日	The Muslim Discovery of Europe	Prof., Princeton Univ., New Jersey (U.S.A.)	Lewis, Bernard
9月11日	古代トルコ民族の暦—とくに十二支紀年を中心として—	Prof., Université de Paris III (France)	Bazin, Louis
S. 49年度・S. 50年度			
S. 51年度			
5月15日	フランスにおける最近の敦煌文書研究	フランス国立科学 研究所研究員	Wu Chiyu
11月15日	大英図書館の現状と将来	Deputy Keeper, Dept. of Archaeol., Calcutta Univ. (India)	Gardner, K. B.

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
12月 7日	ネパール・チベット関係	Prof. and Chairmann, Dept. of History, Tribhuvan Univ., Kathmandu (Nepal)	Madhav Raj Pande
3月12日	カイラス＝マナサロワール地方のディ クンバ派	日本学術振興会 外国人招聘研究員 Prof., Fac. of Letters and Phil., Universi- tà, degli Studi di Roma (Italy)	Petech, Luciano
S. 52年度			
4月20日	中国共産党史の諸問題	Prof., Fac. of Arts, York Univ. (Canada)	陳 志讓
10月12日	清律における故殺について	Prof., Rijksuniversiteit Leiden (The Netherlands)	Meijer, M. Johan
11月12日	17世紀における日本の銅とヨーロッパの 権力政治	Prof., Fac. of Arts, København's Uni- versitet Copenha- gen (Denmark)	Glamann, Kristof
S. 53年度			
4月15日	カナダにおけるモンゴル研究の動向	(Canada)	Scott, K.
5月23日	東アジア諸言語の系統と類型	Prof., Fac. of Arts, København's Uni- versitet, Copenha- gen (Denmark)	Egerod, Søren C.
9月22日	The Newly Discoveved Original Khazar Docuinent (未発見の原本ハザル語文 書)	Director, Ukrainian Research Institute, Harvard Univ., Cambrige, Mass. (U.S.A.)	Pritsak, Omeljan
11月22日	中国文字と言語・歴史・美術との関係	(香港)	周 法高

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
S. 54年度			
10月24日	ティムールとヨーロッパ	(Germany)	Lindgren, Uta
11月 5日	南ロシアと中央アジアにおける匈奴の考古学的遺物について	(Germany)	Werner, Joachim
S. 55年度			
7月15日	16～18世紀的中・菲・美貿易	香港新亜研究所教授	全 漢昇
9月27日	エズラ・ルーミス・パウンドと支那人講師との交渉	Prof., Istituto Universitario Orientale di Napoli (Italy)	Lionello, Lanciotti
2月10日	中国近代史学の発展	Prof., Senior Research Fellow, Dept. of Far Eastern History, the Australian National Univ. (Australia)	呉 緝華
S. 56年度			
S. 57年度			
6月26日	新発見の明清檔案—屏風檔、信牌檔与乾隆期朝刊科題本—	中国社会科学院歴史研究所副研究員	周 遠廉
11月15日	Uigur Studies in Hungary (ハンガリーに於けるウイグル研究)	Head, Dept. of Central Asian Studies, Budapest Eötvös Loránd Univ. (Hungary)	Kara, György
S. 58年度			
S. 59年度			
4月17日	ケーレシ・チョーマ・シャンドル生誕二百年記念講演会 ラマ教の名称をめぐる	東京大学教授 東洋文庫研究員	山口 瑞鳳

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
	チョーマ菩薩像と大正大学 My general Impressions on Kōrōsi Csoma チョーマ・デ・ケレスのシンボ ジュームについて	大正大学教授 東京大学教授	一島 正真 ニチャン・ リンポチェ 高崎 直道
5月 2日	The English Missionaries in Siberia— The London Missionary Society's Mis- sion to the Buryats, 1817—'40	Prof., Univ. of Lon- don (U. K)	Bawden, Charles R.
7月 7日	清代前期経済在中国封建経済発展中の 地位 清代の賤良	中国社会科学院 経済研究所副教授 中国社会科学院 経済研究所副教授	方 行 経 君健
3月23日	書儀中所見之婚喪礼俗	中国北京大学教授	周 一良
S. 60年度			
S. 61年度			
7月19日	中国における民族研究の現状 中国における西夏研究	中国社会科学院 民族研究所副所長 中国社会科学院 民族研究所副研究員	杜 榮坤 史 金波
11月 8日	中国歴代行政区画概述 —『中国歴史地図集』刊行によせて—	上海復旦大学 歴史系教授	譚 其驥
S. 62年度			
4月25日	ダマスカス歴史文書センター —その所蔵文書と利用方法—	Prof., Center of His- torical Documents, Damascus. (Syria)	Dad al-Hakim
5月 2日	文革以後における明清社会経済史研究の 現状	中国社会科学院 歴史研究所副研究員	姜 鎮慶
5月 9日	中国文化の継承と展望	中国北京大学 歴史系教授	鄧 広銘
6月 6日	コータン文献数点の年代とコータン史上 若干の問題	中国北京大学 歴史系教授	張 広達

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
10月 3日	新たに発見された龍鳳期、朱元璋によって讃造せられた魚鱗冊について	中国社会科学院歴史研究所助理研究員	樊 成顕
S. 63年度			
4月30日	鄭州の商代文化	中国鄭州大学 歴史系教授	李 民
6月 4日	徽州契約文書の収蔵・整理と研究の現状について	中国社会科学院歴史研究所副研究員	劉 重日
6月25日	簡論唐宋科举制度中の若干問題	中国杭州大学 歴史系副教授	何 忠礼
9月13日	銀雀山出土竹簡にみえる市法について	中国社会科学院 歴史研究所研究員	李 学勤
9月30日	王船山の思想における哲学と智慧の関係について	Prof., Collège de France	Gernet, Jaques
10月13日	トルコ民族と仏教	Prof., Université de Paris III (France)	Bazin, Louis
10月25日	明代遼檔案所反映の軍戸与軍屯の几个問題	中国遼寧社会科学院 副院長	謝 肇華
11月12日	『蒙古秘史』明初漢字音譯本と八思巴文字の関係	中国社会科学院 民族研究所所長	照那 斯圖
12月 3日	先秦貨幣と中国の歴史	上海市錢幣学会 名誉理事長	馬 飛海
H. 元年度			
6月10日	明代田賦科則及其改革	中国福建師範大学 歴史系副教授	唐 文基
6月24日	ネパール国立公文書館の写本部門	Chief, National Archives (Nepal)	Dangol, B. D.
7月 8日	曹寅と日本—以新發現の曹藏《吾妻鏡》为中心—	中国社会科学院 歴史研究所副研究員	馮 佐哲
9月 5日	ハンガリーにおけるアルタイ学研究	Prof., Director of Chair of Altaic Studies, Tózséfi Attila Univ., Szeged (Hungary)	Róna-Tas, A.

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
11月24日	満族先世的発祥地問題	中国中央民族学院 名誉主任教授	王 鐘翰
12月 9日	萬斯同『明史列伝』	中国復旦大学 歴史系教授	呉 傑
H. 2年度			
4月21日	Remarks on the Protection of Environment in Ancient India According to the Dharmasastra (古代インド法典文献に見える“環境保護”考)	Prof. Dr., Univ. Hamburg (Germany)	Wezler, Albrecht
7月 7日	明清時代中国經濟の發展と制約	中国浙江省社会 科学院歴史研究所 副所長	李 伯重
7月21日	我所見到的日本珍藏漢籍善本	内蒙古大学蒙古史 研究所教授	周 清澍
12月 7日	イフター制とアラブ社会	Prof., Univ. of Cairo (Egypt)	Rabie, M. H.
12月15日	回族及びソ連のドンガン族の情況	中央民族学院教授	胡 振華
3月23日	New Archaeological Excavation in Soviet Central Asia and Afghanistan	Head of Institute of Oriental Studies Academy of Sci. U.S.S.R.	Bongard- Levin, G. M.
3月30日	Is there a Civil Society in Islam	東京大学東洋文化 研究所外国人研究員	Sadria, Modjtaba
H. 3年度			
5月21日	An Outline of The History and Doctrine of rDzogs-chen	Directeur de Recherche, Centre National des Recherches Scientifiques (France)	Karmay, S.G.
5月27日	Three Cultural Intermediaries Between, East and West : Joao de Barros, Jao Rodrigues Tsuzza, S. J., and Isaoc Titsingh	Research Prof., Member of the U.K. Academy	Boxer, C. R.

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
6月15日	イスラム史の中のアゼルバイジャン	Assoc. Prof., Univ. of Mass. (U.S.A.)	Altstadt, A. L.
6月15日	中央アジアの英雄叙事詩	Researcher, Harvard Univ. (U.S.A.)	Paksoy, H. B.
11月13日	中国蔵学研究中心について	中国蔵学研究中心 総幹事	多杰才旦
11月22日	Political and Social Evolution of Iran in Later Middle Ages	Prof., Univ. of Paris and C.N.R.S. (France)	Calmard, J. M.
12月 4日	吐魯番出土墓碑及び其研究概要	中国新疆師範大学 教授	侯 燦
1月18日	呉三桂降闖史実考辨	中国社会科学院歴史 研究所助理研究員	李 格
H. 4年度			
4月18日	Islamic Historiography in Southeast Asia ; Did it exist ?	Lecturer, Univ. of Brunei Darussalam (Brunei)	Mamsurnoor I. A.
6月23日	スタイン氏第四回中央アジア探検(1930～'31)の研究	中国蘭州大学 専任講師	王 冀青
11月 6日	Taiwan's recent political democratization	Scholar-curator, The Hoover Institution (U.S.A.)	Myers R. H.
11月13日	朱元璋詔令	中国社会科学院 歴史研究所前所長	陳 高華
11月20日	ロシアにおける敦煌及び中央アジア出土文書の研究	ロシア科学アカデミ イ 東洋学研究所ペ テルスブルグ支所 極東文献部長 (Russian Federation)	Menshikov L. N.
12月11日	永楽期の徙民政策—河北広宗県の場合—	中国南開大学 歴史研究所教授	南 炳文

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
12月14日	Rethinking Modern China's Economic History ; From Marx to Malthus and Smith	Prof., Univ. of California (Irvine Campus) (U.S.A.)	R. Bin Wong
2月 5日	Islam as Proto-Nationalism in the Ottoman Empire, 1876-1909	Associate Prof., Univ. of the Bosphorus (Turkey)	Selim Deringil
3月24日	山東省地域の新石器時代 —泗水尹家の発掘をめぐって—	中国山東大学 考古系教授	蔡 鳳書

財団法人東洋文庫 談話会 開催略年表*

*『東洋文庫十五年史』第三章第六節「東洋文庫談話会」の説明文に、「文庫が未だモリソン文庫と称して、丸ノ内仲通りの仮事務所（三菱本社の裏通）に在った時代から、白鳥博士の懇意によって催されていた。（中略）。大正12年9月1日の大震災火災と、その後に当文庫の移転及び新組織へ変改等により、一時中止のやむなきに至った。然るところ、近時内外に互り整備を遂げ、且つ文庫員も増加したので、**昭和10年度**より復活これを実行することとしたのである。」とあることから昭和10年度より略年表を作成した。なお、『年報』の刊行されていない期間は、『十五年史』の記録に拠った。

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
S. 10年度			
1月26日	磐境神籙考	東洋文庫研究部員	出石 誠彦
	タルキスタンのソグド遺蹟について	東洋文庫研究生	岩佐精一郎
3月30日	支那早魁説話考	(前出)	出石 誠彦
	伯夷叔斉伝説考	東京帝国大学教授 東洋文庫研究員	加藤 繁
6月 8日	欧文東洋学入門二書—ラトゥレット 『支那史概論』, ゲルセー『極東史概説』—	東京帝国大学教授 東洋文庫研究員	和田 清
	江戸文学に及ぼせる支那小説の影響を 論じて雨月物語に及ぶ	東洋文庫図書部員	樋口慶千代
7月20日	満・鮮・北支旅行談	東洋文庫理事 帝国学士院会員	白鳥 庫吉
	凌純聲著松花江下流域の赫哲族を読みて	(前出)	和田 清
	赤外線写真による古文書の鑑定	東洋文庫職員	高山 定雄
12月14日	朝鮮視察旅行談	東洋文庫図書部	岩井 大慧
S. 11年度			
3月 7日	前漢末に漢火徳説の称へられし理由	東洋文庫図書部員	久野 昇一
4月16日	曇鸞大師に就いて	東洋文庫図書部	近角 文常
	西漢前期の貨幣に就いて	東京帝国大学教授 東洋文庫研究員	加藤 繁

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
7月 4日	佛陀瞿沙に就いて	東洋文庫図書部	石黒 彌致
	邪馬台問題に対する解釈の変遷	東洋文庫研究生	矢澤 利彦
10月31日	ミェリー氏の「饒樂水」に就いて	(同上)	矢澤 利彦
	南越建国の始末に就いて	東京帝国大学教授 東洋文庫研究員	和田 清
S. 12年度			
1月23日	曹魏篡奪の思想史的考察	東洋文庫図書部員	久野 昇一
	新獲元代の一経済史料に就いて	東洋文庫図書部	岩井 大慧
3月20日	隋唐両軍の遼東遠征路	東洋文庫研究生	矢澤 利彦
	最近世史上の日満関係	東洋文庫研究部員	出石 誠彦
5月11日	一茶の俳句研究	東洋文庫図書部員	樋口慶千代
	宋の金牌子の刻文に就いて	東京帝国大学教授 東洋文庫研究員	加藤 繁
7月 3日	支那に於ける蓮の観賞	早稲田大学教授 東洋文庫研究員	津田左右吉
	満鮮北支視察旅行談	(前出)	岩井 大慧
9月25日	烏孫の名称に就いて	東洋文庫研究生	榎 一雄
	西部亜米利加を巡りて	東洋文庫図書部員	高木久美子
12月11日	亜米利加人気質	東洋文庫図書部員	沼田 軾雄
	支那の正統論に就いて	(前出)	久野 昇一
S. 13年度			
2月26日	魏晉南北朝時代に老莊思想の 盛に成りし理由	(前出)	久野 昇一
	律呂正義と徳理格とについて	(前出)	矢澤 利彦
4月 2日	土蜘蛛伝説について	東洋文庫常務理事 帝国学士院会員	白鳥 庫吉
6月25日	烏孫の原住地に関する一考察	(前出)	榎 一雄
	高句麗の五部について	(前出)	矢澤 利彦

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
10月 1日	樺太視察旅行談	東洋文庫図書部	岩井 大慧
S. 14年度			
1月28日	梅松論について	東洋文庫図書部員	五十嵐梅三郎
	北支満鮮旅行談	東洋文庫研究部員	出石 誠彦
3月25日	清祖発祥の地域について	東京帝国大学教授 東洋文庫研究員	和田 清
	米国における東洋学の現状	東方文化学院研究所 委託事業部研究員	百瀬 弘
5月20日	嘉靖十年の天主教禁圧	東洋文庫研究生	矢澤 利彦
	四始五際思想について	東洋文庫図書部員	久野 昇一
10月26日	支那旅行談	第一高等学校教授 東洋文庫研究生	榎 一雄
S. 15年度			
2月 3日	Kirghiz—Kaizaks の社会	(前出)	矢澤 利彦
	儒教影響の一面	東洋文庫図書部員	樋口慶千代
5月25日	五行説の起源を論ず	慶応義塾大学教授 東洋文庫研究員	橋本 増吉
	西藏大藏教について	東洋文庫図書部員	笠松 単伝
7月20日	高句麗の官位制度について	(前出)	矢澤 利彦
S. 16年度			
1月18日	満州旅行談	(前出)	和田 清
	Kašigar—Tašikurgan	(前出)	榎 一雄
3月22日	漢室再受命の思想に就いて	(前出)	久野 昇一
	元の戯金経箱の銘文について	東京帝国大学教授 東洋文庫研究員	原田 淑人
6月 7日	武内氏の「論語の研究」について	東洋文庫研究員	津田左右吉
	満支耶蘇教史関係新著三・四	(前出)	矢澤 利彦

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
10月 4日	支那旅行談	東京帝国大学教授 東洋文庫研究員	和田 清
12月13日	難兜国についての考	第一高等学校教授 東洋文庫研究生	榎 一雄
S. 17年度			
1月31日	漢詩に抱る芭蕉の俳味	東洋文庫図書部員	樋口慶千代
4月11日	辛酉革命説について	東洋文庫図書部員	久野 昇一
9月19日	満州を三韓と称することについて	(前出)	和田 清
S. 18年度			
4月10日	巫と成吉思汗の即位	東洋文庫主事	岩井 大慧
	不明の二地名 Sarag—madu	(前出)	榎 一雄
5月29日	漢書翼奉伝に見えたる太陰について	(前出)	久野 昇一
	成都の大秦寺について	(前出)	榎 一雄
9月25日	侏儒考	(前出)	和田 清
	海青碑のアラビア文字銘文	(前出)	榎 一雄
12月11日	溟王莊譚故事	(前出)	和田 清
S. 19年度			
2月26日	尚書考靈緯について	(前出)	久野 昇一
4月22日	竹書紀年の製作年代	慶応大学名誉教授 東洋文庫研究員	橋本 増吉
9月16日	清末の教案について	(前出)	和田 清
12月 9日	チベットの名称について	(前出)	榎 一雄
S. 20年～S. 24年中止			
S. 25年度			
1月30日	建州左衛の位置について	東洋文庫図書部員	園田 一龜
3月23日	世界史より見たる日本	(前出)	和田 清

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
S. 26年度			
4月17日	「天朝田畝制度」の成立年代について	お茶の水女子大学 助教授	市古 宙三
6月 5日	天草本羅葡日辞典の複製について	東洋文庫参事	岩井 大慧
10月 9日	真番郡の位置について	学習院大学教授 東洋文庫研究員	末松 保和
11月20日	通文館志の編纂について	東洋文庫主事	田川 孝三
1月29日	中古中国語の歌(戈)韻について	東京大学講師 東洋文庫研究員	三根谷 徹
2月12日	西藏蔵経の版種について	蔵和辞典編纂委員会 委員	壬生 台舜
2月12日	イギリス及び欧州における 最近のシナ学の発展	Lectr., School of Oriental and Afri- can Studies, Univ. of London (U.K.)	Pulleyblank, Edwin G.
3月18日	オランダ史料から見た日支貿易	東京大学教授 東洋文庫研究員	岩生 成一
3月18日	清初蘇州の字号経営	東洋文庫研究員	田中 正俊
S. 27年度			
4月15日	鄯善国の官制と漢書西域伝の性質	東京大学助教授 東洋文庫研究員	榎 一雄
5月24日	支那の誕生日について	東京大学名誉教授 東洋文庫研究顧問	和田 清
6月21日	オランダ東印度会社の遣支使節について	(前出)	岩生 成一
9月20日	チングス汗の千戸について	東洋文庫研究生	本田 實信
10月18日	古代中国の尺度について	東京大学助教授 東洋文庫研究員	関野 雄
11月22日	最古刊本マルコ・ポーロ東方見聞録	東洋文庫図書館部長	岩井 大慧
12月20日	高麗の両班の起源について	(前出)	末松 保和
2月21日	在外研究報告	東京大学教授 東洋文庫理事	山本 達郎

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
3月28日	殷墟並に印度支那の発掘について	京都大学教授 東洋文庫研究顧問	梅原 末治
S. 28年度			
4月18日	唐代音の鼻頭音について	東京教育大学助教授 東洋文庫研究員	河野 六郎
5月16日	明正統期の銀山再開をめぐる官僚と礦賊	日本大学講師 東洋文庫研究員	田中 正俊
6月20日	東南アジアの言語に関する最近の研究	東京大学専任講師 東洋文庫研究員	三根谷 徹
7月18日	甲骨文について	東洋文庫研究顧問	橋本 増吉
9月19日	安南王のオランダ東印度会社宛 援兵懇請状について	東京大学教授 東洋文庫研究員	岩生 成一
10月17日	初期李朝の貢物について	東洋文庫主事	田川 孝三
11月21日	殷朝生産の基盤	東京大学助教授 東洋文庫研究員	関野 雄
1月23日	渤海国地理考	東京大学名誉教授 東洋文庫研究顧問	和田 清
2月20日	唐蕃会盟碑研究について	蔵和辞典編纂委員会 委員	壬生 台舜
3月13日	ミリンダパンハについて	東洋文庫主事	石黒 彌致
S. 29年度			
4月17日	新羅の奈勿王について	東洋文庫研究員	末松 保和
5月22日	諺言について	(前出)	河野 六郎
6月26日	古代チベット紀年の錯誤について	東京大学講師	青木 文教
9月18日	兀惹考	東京大学名誉教授 東洋文庫研究部部長	和田 清
10月16日	邪馬台国と日本の建国	東京大学助教授 東洋文庫研究員	榎 一雄
11月27日	明末蘇州の二民変について	(前出)	田中 正俊
12月28日	華北における廟会について	東洋大学助教授 東洋文庫研究員	山根 幸夫

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
1月22日	明史西域伝于闐考	東洋文庫研究員	松村 潤
3月19日	竹島について	東洋文庫図書部	田川 孝三
S. 30年度			
4月16日	マン族の山関簿	東京大学教授 東洋文庫研究員	山本 達郎
6月18日	戦国時代における周	東洋文庫図書部	宇都木 章
7月16日	先秦の国家と地方都市	東京大学助教授 東洋文庫研究員	関野 雄
10月15日	朝鮮議政府考	学習院大学教授 東洋文庫研究員	末松 保和
11月19日	古典チベット語文法について	東洋文庫研究員	山口 瑞鳳
1月21日	占城国(Champa)末期の王都について	東京大学教授 東洋文庫研究員	岩生 成一
S. 31年度			
4月21日	ヴェトナム語に関する二・三の問題	東京大学助教授 東洋文庫研究員	三根谷 徹
5月19日	十七世紀前半のオランダ東インド 経営に関する一考察	東洋文庫研究生	永積 昭
6月16日	戦国楚の世族について	(前出)	宇都木 章
7月21日	二十世紀初頭におけるインドの民族運動	東洋文庫研究生	高畠 稔
9月22日	南宋米市場の分析	東洋文庫研究生	斯波 義信
10月20日	初期サキャ派史	東洋文庫図書部	金子 良太
11月17日	明末清初の江南農村手工業について	横浜市立大学助教授 東洋文庫研究員	田中 正俊
12月15日	明代哈密王家の起源	(前出)	松村 潤
1月19日	チベット語接続辞 te について	(前出)	山口 瑞鳳
2月16日	克殷前の周の青銅器	(前出)	関野 雄

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
S. 32年度			
4月20日	印度の一年半	東京大学教授 東洋文庫研究部部長	榎 一雄
5月18日	漢字論について	東京教育大学教授 東洋文庫研究員	河野 六郎
6月15日	史は巫から起ったか	東洋文庫図書部長	岩井 大慧
7月20日	中国の考古学界を視察して	東京大学助教授 東洋文庫研究員	関野 雄
9月21日	歴史的に見た南北シナの税制の相違	東京女子大学助教授 東洋文庫研究員	山根 幸夫
10月19日	唐代の郡望表について	東洋文庫研究生	池田 温
12月21日	私主人攷—吏奴と商人—	東洋文庫図書部	田川 孝三
1月18日	八思巴血脈中の一問題	東洋文庫図書部	金子 良太
2月15日	イギリス支配の初期におけるビハール州 の農業人口	東洋文庫研究生	高畠 稔
S. 33年度			
4月19日	植民史とインドネシア史—戦後の オランダに於ける東洋研究の一考察—	東洋文庫研究生	永積 昭
6月21日	商業史的に観たる宋代の経済的發展	東洋文庫研究生	斯波 義信
7月 5日	ポーランドに於ける東洋学の現状	Assoc. Prof., Uniwersytet Warszawski (Poland)	W. コタニス キー
9月20日	李朝初期の兵制と奉足	学習院大学教授 東洋文庫研究員	末松 保和
11月22日	藩鎮親衛軍の権力構造 —唐宋の変革と藩鎮体制—	明治大学講師 東洋文庫研究員	堀 敏一
12月20日	元の藩王について	東洋文庫研究生	岡田 英弘
1月31日	現代チベット語方言の分類について —その歴史と課題—	東京大学講師 東洋文庫研究員	北村 甫
S. 34年度			
4月18日	李朝の鷹房と鷹子進上	(前出)	田川 孝三

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
5月30日	平戸イギリス商館書翰の現存状態について	東京大学教授 東洋文庫研究員	岩生 成一
6月27日	ミリンダバンハ考	東洋文庫図書館部	石黒 彌致
7月25日	秋官志の処罰事例に就いて	東洋文庫図書館部	森岡 康
9月19日	アメリカを巡りて	学習院大学教授 東洋文庫研究員	末松 保和
10月31日	韻鏡の『清濁』と越南漢字音	東京大学助教授 東洋文庫研究員	三根谷 徹
11月28日	トルコ共和国におけるチュルク民族史 研究—イスラーム化以前—	東京大学助教授	護 雅夫
1月30日	「社に戮す」ことについて	東洋文庫図書館部	宇都木 章
2月27日	一田両主制と頑佃抗租との関係について	横浜国立大学助教授 東洋文庫研究員	田中 正俊
S. 35年度			
4月16日	崇徳元年の証明について	東洋文庫研究員	松村 潤
5月 7日	同治年間の教案について	東洋文庫研究生	佐々木正哉
6月18日	安史之乱前の兵制運用上の二、三の問題	東洋文庫研究生	菊池 英夫
7月16日	近代日本における議政党政の形成	東洋文庫研究生	鳥海 靖
9月17日	不明の二地名—扞泥城と倭面土国—	東京大学教授 東洋文庫研究部部長	榎 一雄
10月29日	第二十五回国際東洋学会議(モスクワ) に参加して	東京大学教授 東洋文庫研究員	山本 達郎
12月24日	欧米諸国のインド研究	東京大学東洋文化 研究所助教授 東洋文庫研究員	荒 松雄
1月21日	考工記車制の一問題—「輶」の系譜—	東洋文庫研究員	西田 守夫
S. 36年度			
4月15日	ベトナムから帰って	東京大学助教授 東洋文庫研究員	三根谷 徹
5月 6日	韓国最近の史学界	高麗大学教授	李 弘植

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
6月17日	インド旅行報告	東洋文庫研究員	北村 甫
7月19日	オランダにおける東洋学の現状について	Prof. Rijksuniversiteit te Leiden (The Netherlands)	フリッツ・ フォス
10月 3日	グーデンベルヒ大学教授ヘルムート・ シール、パリ大学教授ルイ・バザン 両氏を囲む会		
10月 7日	アメリカにおける蒙蔵研究の現状	東洋文庫研究生	岡田 英弘
10月21日	『清国行政法』について	東京都立大学教授	坂野 正高
12月16日	清末の郷紳	お茶の水女子大学 教授	市古 宙三
2月17日	高句麗の五部について	東洋文庫研究員 学習院大学教授 東洋文庫研究員	末松 保和
S. 37年度			
4月17日	Recent development in Oriental Studies in Great Britain	Librarian, School of Oriental and African Studies, London Univ. (U. K.)	Pierson, J. D.
5月12日	中国の国家権力と農民支配	東洋文庫研究生	鶴見 尚弘
6月 2日	明王朝の権力構造 —国家論の問題として—	東洋文庫研究生	酒井 良樹
7月 9日	西ヨーロッパに在る蒙古写本について	Prof., Univ. zu Köln (Germany)	Heissing, Walther
7月21日	満文檔案に見える毛文龍の書簡	明治大学教授 東洋文庫研究員	神田 信夫
9月15日	メキシコから帰って	東京大学教授 東洋文庫研究部部長	榎 一雄
10月27日	欧米学界の一端を視察して —ウィーン学派民俗学の現情を中心に—	上智大学助教授	白鳥 芳郎
11月 9日	欧米みやげ話—ハーバードの東洋学と 欧州のウィグール研究—	大阪大学助教授	山田 信夫

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
12月 1日	台湾見聞談—台湾所在の清朝満州語資料とその整理状況—	明治大学教授 東洋文庫研究員	神田 信夫
12月15日	チベット支配下敦煌における漢人の反乱	東洋文庫研究員	菊池 英夫
2月26日	檜原陳政と福州事件	横浜市立大学助教授 東洋文庫研究員	田中 正俊
3月 5日	リー・E・ウィリアム氏(ブラウン大学教授)を囲んで華僑史研究についての情報交換	Prof., Brown Univ. (U. S. A.)	Lee. E. William
S. 38年度			
4月20日	西周宗法封建社会論の疑点	東洋学術協会 常任委員 東洋文庫図書部	宇都木 章
6月11日	ホレーシオ・ネルソン・レイ—明治維新の国際関係と欧人企業者の活動に関する一考察—	ユネスコ東アジア 文化研究センター 研究員	田中 時彦
10月29日	高麗初期の官階について	東洋文庫研究生	武田 幸男
12月14日	東突厥の国家内部のソグド人	東京大学助教授 東洋文庫研究員	護 雅夫
12月31日	アルタイ言語学の課題	Prof., Indiana Univ. (U. S. A.)	Sinor, Denis
2月 1日	洪武政権の確立時期について	東京女子大学教授 東洋文庫研究員	山根 幸夫
2月29日	第二十六回国際東洋学会議に参加して	東京大学教授 東洋文庫研究部部長	榎 一雄
3月28日	外務省の文書より見たる我が満蒙史研究の回顧		河村 一夫
S. 39年度			
4月 4日	西ネパールの旅(マッラ王朝遺跡踏査)	東海大学講師	長澤 和俊
5月23日	欧米の東洋学の近況 (満蒙文献調査と「青年中国学者」会議)	明治大学教授 東洋文庫研究員	神田 信夫
6月 9日	Hunnen の言語について	Prof., Univ. of Cali- fornia (U.S.A.)	Maenchen- Helfen, Otto

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
6月13日	ドイツにおけるトゥルファン文書(漢文)の現状	中央大学教授	嶋崎 昌
9月 9日	Some Aspects of the Organization of the Dutch Trade in the Far East	Archivist, General National Archives of the Netherland	Roelofs, Meilink
9月26日	ソビエトの図書館	別置近代中国研究委員会委員	吉田 金一
10月 2日	沖縄—天、地、人—		木本 英夫
10月 9日	外蒙旅行及び「共産中国における歴史記述」に関する国際シンポジウムに出席して	東京大学教授	衛藤 藩吉
11月21日	ロシング・バグ氏を囲むお茶の会		
12月15日	フランスから帰って	東洋文庫研究生	山口 瑞鳳
12月19日	一八六二年金銭会の蜂起	お茶の水女子大学 教授	市古 宙三
		東洋文庫研究員	
1月23日	新中国を旅して	神戸大学助教授	宮下 忠雄
1月30日	ジョン・フランシス・デーヴィスの中国研究—一八三六年の「中国論」の成立に迫る—	東京大学教授	坂野 正高
2月27日	武漢における二つの革命団体 —文学社と共進会—	(前出)	市古 宙三
S. 40年度			
4月24日	南宋行在会子の発展	東洋文庫研究生	草野 靖
5月22日	韓国の字母とその音韻変遷について	ソウル大学副教授	崔 鶴根
5月24日	レニングラードの敦煌資料(壁画と写本)	京都市大学人文科学 研究所助教授 東洋文庫研究員	藤枝 晃
6月25日	敦煌仏教史料—とくに禅宗関係資料について—	駒沢大学助教授	田中 良昭
7月 6日	唐末の藩鎮と中央財政	Prof., Univ. of London (U.K.)	Twitchett, Denis

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
7月10日	アショーカー王伝説の一考察	東洋文庫研究生	山崎 元一
9月28日	ペリオ将来の敦煌画	国立文化財研究所 研究員	秋山 光和
10月 2日	東洋史の立場より見たヨーロッパ	立命館大学教授	三田村泰助
10月23日	アメリカの中国研究	お茶の水女子大学 教授 東洋文庫研究員	市古 宙三
11月20日	東洋学のあり方について	東京大学教授 東洋文庫理事・ 研究員	山本 達郎
12月21日	訪古学新の旅 —中華人民共和国を訪れて—	東洋文庫研究員 (S.41年 3月退職、山 梨大学助教授、東 洋文庫兼任研究員)	菊池 英夫
2月 9日	台湾史研究の諸問題について	国立台湾大学図書館 典藏股長	曹 永和
3月19日	一条鞭法について	神戸大学助教授 日本学術振興会 流動研究員	岩見 宏
S. 41年度			
6月18日	アジア諸民族研究所レニングラード支所 について	東京大学助教授 東洋文庫研究員	護 雅夫
7月16日	アジア近代化と比較社会構造 —東南アジア史を例として—	東洋文庫附置ユネス コ東アジア文化研 究センター研究員	市川健二郎
9月17日	満文原檔について	清代史研究委員会 明治大学教授 日本大学助教授 東京外国語大学 アジア・アフリカ 研究所助教授	神田 信夫 松村 潤 岡田 英弘
10月22日	チベット古代王朝と唐朝との血縁関係	東洋文庫研究生	山口 瑞鳳
2月 4日	明代の大戸について	内地研究員 神戸大学助手	谷口規矩雄

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
S. 42年度			
4月 8日	典座教訓		石田 正憲
5月20日	釜山倭館史料の成立と伝存	東洋文庫研究生	長 正統
6月 3日	皇輿全覧図について	埼玉大学教授	矢澤 利彦
7月 8日	バリ島のヒンドゥー教徒について	東京大学大学院生	森 弘之
9月30日	方臘の乱について	日本学術振興会 奨励研究員	丹 喬二
11月25日	蘇東坡論	日本学術振興会 流動研究員 京都大学助教授	竺沙 雅章
12月16日	各国の図書館・古文書館	お茶の水女子大学 助教授	和田 久徳
1月10日	マホメット伝研究の最近の動向	東洋文庫研究生	後藤 明
2月17日	清朝における八旗制度の展開	内地研究員 一ノ関工業高等 専門学校助教授	細谷 良夫
S. 43年度			
4月13日	南宋政治新探—官僚化した独裁絶対君主、 官僚主義および農民起義—	Assoc. Prof., Prince- ton Univ. (U.S.A.)	劉 子健
5月18日	東洋文庫所蔵三朝本『魏書』について	京都大学助教授 東洋文庫研究員	竺沙 雅章
6月22日	唐の戸令及び田令に関する若干の考察	東洋文庫奨励研究員	土肥 義和
9月 9日	ハンガリーにおける東洋学研究—とくに トルコ学について—		Hazai, Georg
9月21日	魚鱗冊について	一橋大学教授 東洋文庫研究員	村松 祐次
11月30日	盛唐の集賢院	日本学術振興会 流動研究員 北海道大学助教授	池田 温
12月21日	ピュー(驃)に関する最近の論文	東洋文庫奨励研究員	西 義郎
2月22日	古代日本語のサ行音をめぐって	一橋大学教授 東洋文庫研究員	亀井 孝

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
3月22日	国立国会図書館所蔵康熙15年丈量の 長洲県魚鱗冊に関する一考察	山梨県立女子 短期大学助教授 東洋文庫研究員	鶴見 尚弘
S. 44年度			
4月26日	女国と東女国	東京大学助教授 東洋文庫研究員	山口 瑞鳳
6月28日	張金山燃燈文	東洋文庫奨励研究員	金子 良太
9月27日	洪万宗とその文学 —李朝文人の性格について—	日本学術振興会 流動研究員 天理大学助教授	大谷 森繁
10月28日	梅原考古資料について	京都大学名誉教授 東洋文庫評議員	梅原 末治
1月31日	中国の教育革命について	東洋文庫附置ユネス コ東アジア文化研 究センター研究員	岩崎富久男
2月28日	両税法成立に関する性格論と原則論	山形大学助教授	船越 泰次
S. 45年度			
4月25日	トルコ近代史に関する一考察 —特にアーヤーンをめぐる—	東洋文庫奨励研究員	永田 雄三
7月18日	路浮税について—釜山倭館倭債の 一考察—	東洋文庫奨励研究員	長 正統
10月17日	隋倭国交の問題点について		徐 先堯
10月27日	敦煌石室調の由来とその出土品の所在に ついて	京都大学名誉教授 東洋文庫評議員	梅原 末治
11月14日	宋代奴婢労働の形成 —特に収養について—	日本学術振興会 奨励研究員	渡辺 紘良
12月12日	入唐求法僧将来唐代古文書について —円珍文書を中心に—	北海道大学助教授 東洋文庫研究員	菊池 英夫
S. 46年度			
4月24日	華陽国志の版本について	日本学術振興会 流動研究員 名古屋大学教授	久村 因

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
6月19日	清朝の開国説話について	日本大学教授 東洋文庫研究員	松村 潤
7月 3日	アメリカにおける最近の中国研究	Prof., Univ. of Michigan (U.S.A.)	Young, Ernest P.
9月10日	ウィーンにおける日本研究		Kreiner, Josef
10月16日	東洋文庫へ寄贈せる梅原考古資料について	京都大学名誉教授 東洋文庫評議員	梅原 末治
12月21日	チベット訳仏典にみられるインド教思想断片—清弁述『タルカジヴァーラー』第9章—	東洋文庫奨励研究員	川崎 信定
1月22日	満洲国号考	明治大学教授 東洋文庫研究員	神田 信夫
S. 47年度			
7月 1日	宋代古田村落における農林家産の零細化とこれに伴う二・三の問題	熊本大学助教授 日本学術振興会 流動研究員	草野 靖
10月11日	アビについて—中世アナトリアの都市商工ギルド—	日本学術振興会 奨励研究員	小山皓一郎
1月23日	ドイツ民主共和国科学アカデミー古代史考古学中央研究所におけるアジア研究の現状	Researcher, Akademie der Wissenschaften der DDR.	Thilo, Thomas
2月 2日	インド・ネパールにおけるチベット文献の調査・収集	東京外国語大学教授 東洋文庫研究員	北村 甫
S. 48年度			
5月26日	蒙古諸部落の起源	東京外国語大学 A. A. 研. 助教授 東洋文庫研究員	岡田 英弘
6月 8日	ヨーロッパに於ける中国研究—フルスウェ氏を囲んで—	Prof., Rijksuniversiteit te Leiden (The Netherland)	Hulsewé, Anthony François

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
6月16日	日本的漢字遣いについて—同然と同前—	山梨県立女子 短期大学助教授 東洋文庫研究員	酒井 憲二
7月 7日	馬健忠の鉄道論—1879年の2つの意見書 について—	東京大学教授 東洋文庫研究員	坂野 正高
9月29日	第一次反乱と遊牧アラブ	東洋文庫奨励研究員	花田 宇秋
11月17日	室町時代仮名抄の国語学的研究、特に 原典ならびに中国側注釈書との関係 から見た—惟高妙安抄「詩学大成抄」 の場合—	日本学術振興会 流動研究員 愛媛大学教授	柳田 征司
1月26日	東南アジア諸国におけるアジア研究に ついて	東洋文庫附置ユネス コ東アジア文化研 究センター研究員	生田 滋
2月23日	朝鮮訳学書にあらわれた中国字音に ついて	東洋文庫奨励研究員	菅野 裕臣
S. 49年度			
4月20日	イル汗国成立後のアゼルバイジャン軍 政府起源の軍隊について	東洋文庫奨励研究員	志茂 碩敏
5月25日	朝鮮文学における春香伝	韓国延世大学校教授	金 東旭
6月 8日	隋唐の選挙制に関する諸問題	東洋文庫奨励研究員	松本 明
6月29日	中国革命における第3勢力の成立と展開	福島大学教授	菊地 貴晴
10月26日	第6回国際アジア歴史学会議に出席し て	(前出)	生田 滋
3月29日	敦煌文献中の音韻資料について —「礼記音」残巻を中心に—	日本学術振興会 流動研究員 北海道大学助教授	大島 正二
S. 50年度			
4月19日	名句文身をめぐる Smrtijna nakitri の 「言語の門」の解釈	筑波大学助教授 東洋文庫研究員	川崎 信定
5月10日	A General Introduction to the History and Religion of Bon	チベット人 研究協力者	サムテン・ ゲルツェン・ カルメー

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
6月21日	ダナ伝承「ケサル物語」悪魔退治篇について	チベット研究委員会 委員	星 実千代
6月28日	西夏の社会組織に関する新史料	ソビエト連邦国立科学アカデミー東洋学研究所レニングラード支所副所長	Kychanov, Evgenij I.
8月16日	チベット仏教における中観思想の位置	日本学術振興会 流動研究員 広島大学助教授	佐藤 道郎
10月11日	米国議会図書館所蔵の満洲語文献について	日本大学教授 東洋文庫研究員	松村 潤
10月18日	ネパール調査報告	東京外語大学教授 東洋文庫研究員	北村 甫
12月20日	テブについて	東京大学助教授 東洋文庫研究員	山口 瑞鳳
2月21日	モンゴル帝国の構造とチベット	東京外国語大学教授 東洋文庫研究員	岡田 英弘
3月27日	チベット仏教学における中観哲学 —黄帽派を中心として—	日本学術振興会 流動研究員 広島大学助教授	佐藤 道郎
S. 51年度			
5月15日	チベット撰述文献における唯識の学系	駒沢大学講師	袴谷 憲昭
8月28日	アムド・シェルバ方言について	東洋文庫奨励研究員	長野 泰彦
9月18日	造像銘にあらわれた北魏仏教の性格	日本学術振興会 奨励研究員	佐藤 智水
10月23日	敦煌出土漢文文書の一性格 —吐蕃占領期を中心に—	国学院大学講師 東洋文庫研究員	土肥 義和
12月 4日	宋初の遷官について	東洋文庫奨励研究員	古垣 光一
12月11日	吐蕃の国号	(前出)	山口 瑞鳳
1月29日	韓国の考古学と博物館	東洋文庫図書部員	小山 勲

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
3月26日	オスマン帝国支配下のトルコ・エジプト における徴税請負制をめぐる	東京外国語大学 アジア・アフリカ言語 文化研究所助教授 東洋文庫研究員	永田 雄三
3月26日	明末清初における「風俗」の変容と 民衆反乱	日本学術振興会 流動研究員 名古屋大学助教授	森 正夫
S. 52年度			
4月16日	中国をまわって一友好の旅の2週間—	国際基督教大学教授 東洋文庫研究員	坂野 正高
5月28日	現代チベット語研究の現状	東京外国語大学 アジア・アフリカ言語 文化研究所教授 東洋文庫研究員	北村 甫
6月11日	明代前期の水利慣行について —「田頭制」再考—	日本学術振興会 流動研究員 北海道大学助教授	濱島 敦俊
9月24日	転注考	大東文化大学教授 東洋文庫研究員	河野 六郎
11月 5日	李朝における地方の自治組織と民政	日本大学講師 東洋文庫研究員	田川 孝三
11月15日	新出トルファン資料中の軍政関係文書に ついて	北海道大学教授 東洋文庫研究員	菊池 英夫
11月26日	アンペードカルの仏教	国学院大学助教授 東洋文庫研究員	山崎 元一
2月25日	日中戦争下の民間和平工作に関する 新資料	東京大学助教授 東洋文庫研究員	島海 靖
S. 53年度			
4月22日	康熙帝とガルタン	東京外国語大学 アジア・アフリカ言語 文化研究所教授 東洋文庫研究員	岡田 英弘
6月 3日	淳熙16年公私債負除放令について	独協医科大学助教授 東洋文庫研究員	渡辺 紘良

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
10月 7日	張居正丈量と一条鞭法の普及	日本学術振興会 流動研究員 九州大学助教授	川勝 守 (賢亮)
10月21日	新疆の旅	東京大学教授 東洋文庫研究部部長 代理	護 雅夫
10月28日	北京—ウルムチ紀行	お茶の水女子大学 教授 東洋文庫研究員	関野 雄
11月25日	ドチリナ＝キリシタンの諸本について	日本学術振興会 流動研究員 東海学園女子 短期大学助教授	小島 幸枝
2月24日	古代南アラビア碑文中のペドウィンについて	東洋文庫奨励研究員	蔀 勇造
S. 54年度			
6月2日、9日	製本の技術と講習	東洋文庫図書部職員	小林 輝男
6月30日	三国史新羅本紀始祖記事形成過程に 関して	大韓民国慶北大学校 助教授	文 暲鉉
9月29日	東晋南朝貴族制	日本学術振興会 流動研究員 九州大学教授 東洋文庫研究員	越智 重明
2月16日	朝鮮の訓について—千字文を中心に—	文部省内地研究員 富山大学助教授	藤本 幸夫
3月22日	日本に於ける神話意識の展開過程に関し て	大韓民国 檀国大学校教授	黄 淇江
S. 55年度			
12月 6日	江戸時代初期における抄物作成活動 —『国語大辞典』の「抄物」の項・補 訂—	日本学術振興会 流動研究員 愛媛大学助教授	柳田 征司
1月31日	オスマン朝初期のスルタン位継承	日本学術振興会 流動研究員 北海道大学助教授	小山皓一郎

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
2月21日	太平天国後の体制回復策の一面 —余蓮村の場合—	宮城教育大学助教授 文部省内地研究員	高橋 孝助
3月28日	清末四川省における局士 —郷紳の存在形態をめぐって—	東洋文庫奨励研究員	新村 容子
S. 56年度			
6月27日	漢—晋時代における喪服礼の規範的位相 —礼・習俗・法—	東洋文庫奨励研究員	神矢 法子
9月26日	『捷解新語』の原刊本と改修本 —朝鮮語史の観点から—	日本学術振興会 流動研究員 岡山大学講師	辻 星児
1月 9日	北京におけるトルファン文書整理研究の 現状	東京大学教授 東洋文庫研究員	池田 温
	敦煌文献 Pelliot T. No. 1291 『戦国策』 について	フランス国立科学研究 センター研究員	今枝 由郎
3月20日	旧中国の分種慣行	日本学術振興会 流動研究員 熊本大学教授	草野 靖
S. 57年度			
7月 3日	敦煌・吐魯番関係近刊数種	東京大学教授	池田 温
2月19日	宝巻と金蘭会—中国女性史の周辺—	文部省内地研究員 福岡教育大学助教授	相田 洋
2月26日	太平天国期の地方財政問題	東洋文庫奨励研究員	臼井佐知子
3月 5日	六朝隋唐時代の字書・韻書について	東洋文庫奨励研究員	古屋 昭弘
S. 58年度			
2月25日	北魏の仏教信徒団体“邑義”について	日本学術振興会 流動研究員 岡山大学助教授	佐藤 智水
	湖南省における国民革命と農民運動 —湖南農民運動再論—	文部省内地研究員 埼玉大学助教授	坂野 良吉
3月24日	孫文の民生主義について	私学研修福祉会 国内研修員 日本女子大学教授	久保田文次

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
S. 59年度	「満洲」・シベリアにおける日本人 売春婦	愛知県学外研究員 愛知県立女子 短期大学専任講師	倉橋 正直
5月12日	元代の Almalik、Bolal、Emil 三城について の調査	東洋文庫 外国人研究員 中国社会科学院民族 研究所助理研究員	張 承志
10月13日	清初の遼人(漢軍)とその任用 —順治年間(1644～60)を中心に—	東洋文庫奨励研究員	渡辺 修
11月24日	高麗時代の渤海系民大氏について	日本學術振興会 流動研究員 大阪市立大学教授	北村 秀人
S. 60年度			
2月 5日	オリエンタリズムをめぐる批判 —エドワード W. サイド著『オリエン タリズム』に即して—	東洋文庫奨励研究員	今沢 紀子
3月 8日	風俗通義と雞肋編と	私学研修教員 日本女子大学教授	多田 狷介
S. 61年度			
S. 62年度			
2月13日	近代中国華北農村社会における看青・ 打更再考	文部省内地研究員 金沢大学助教授	内山 雅生
2月27日	敦煌における教学仏教の系譜	私学研修教員 龍谷大学教授	上山 大峻
3月26日	突厥碑文における隣国記載	東洋文庫奨励研究員	片山 章雄
S. 63年度			
3月25日	宋代都市寺院の構図 —臨安の寺・院・庵を中心に—	東洋文庫奨励研究員	石川 重雄

開催日	題 目	講演年次現職	氏 名
H. 元年度			
2月24日	『マハーバーラタ ナラ王物語』の邦訳 (岩波文庫)について	文部省内地研究員 金沢大学教授	鎧 淳
3月17日	『東トルキスタン・イスラム共和国 (1933-34年)』に関する予備的考察	東洋文庫奨励研究員	新免 康
3月24日	モンゴル帝国の宮廷の経済的側面	東洋文庫奨励研究員	宇野 伸浩
H. 2年度			
3月16日	辛亥革命と初期社会主義者	私学研修教員 熊本短期大学助教授	上村希美雄
H. 3年度			
9月21日	アラブ勢力の拡大と北シリア山岳民— ウマイヤ朝時代のジャラージマの 活動—	日本学術振興会特別 研究員	太田 敬子
2月 8日	清末中国における外国研究 —1887年の官員遊歴について—	文部省内地研究員 佐賀大学助教授	佐々木 揚
3月21日	父老攷—前漢末ないしは後漢期における 変質を中心に—	東洋文庫奨励研究員	久保田宏次
3月28日	初期仏教教団における罪人の処罰手続	私学内地研究員 国学院大学教授	白井 駿
H. 4年度			
2月23日	唐代安西・北庭地域の長行坊と帖馬制度	東洋文庫奨励研究員	荒川 正晴
3月 8日	セント・カテリーヌ修道院文書をめぐる 諸問題	東洋文庫奨励研究員	松田 俊道
3月15日	韓非子に見える慎到の勢論の再検討	私学内地研修員 駒沢大学専任講師	茂沢 方尚

Ⅲ 業 務 報 告

1. 総 務 報 告

i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

理 事 会

- 第284回 開催日 平成4年6月9日（火曜日）
出席者 北村 甫，市古宙三，河野六郎，佐藤次高，斯波義信
田中正俊，林健太郎，護 雅夫
委任状 有光次郎，岩崎寛彌，中村俊男，山本達郎
- 第285回 開催日 平成4年6月9日（火曜日）
出席者 北村 甫，市古宙三，河野六郎，佐藤次高，斯波義信
田中正俊，林健太郎，護 雅夫
委任状 有光次郎，岩崎寛彌，中村俊男，山本達郎
- 第286回 開催日 平成4年12月7日（火曜日）
出席者 北村 甫，石井米雄，市古宙三，河野六郎，佐藤次高
斯波義信，田中正俊，林健太郎
委任状 有光次郎，岩崎寛彌，中村俊男，護 雅夫，山本達郎

評 議 員 会

- 第131回 開催日 平成4年6月9日（火曜日）
出席者 岡野 澄，神田信夫，亀井 孝，関野 雄，中嶋 敏
前田充明
委任状 有馬朗人，石川忠雄，井村裕夫，小山宙丸，田部文一郎
中田乙一，長谷川周重，日比野丈夫

ii 東洋学連絡委員会の開催

- 前 期 開催日 平成4年5月26日（火曜日）
出席者 北村 甫（委員長），市古宙三，尾崎 康，佐藤 長，竺沙雅章

日比野丈夫

- 議 題 1. 平成3年度財団法人東洋文庫事業報告について
2. 平成4年度財団法人東洋文庫事業計画について
3. その他

後 期 開催日 平成4年11月24日（火曜日）

出席者 北村 甫（委員長），市古宙三，入矢義高，江上波夫，佐藤 長
中嶋 敏，山本達郎

- 議 題 1. 平成3年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 平成5年度財団法人東洋文庫事業計画案について

2. 人 事 報 告

i 役 員 異 動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
4.6.9	理 事	石 井 米 雄	就 任	

ii 職 員 異 動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
4.4.1	研究員（奨励）	張 士 陽	委 嘱	
4.5.16	〃（兼任）	上 野 英 二	〃	
〃	〃	宮 崎 修 多	〃	
5.1.1	〃	太 田 幸 男	〃	
5.3.1	参 事	長谷川 茂 広	就 職	
5.3.31	研究員（奨励）	荒 川 正 晴	退 任	
〃	〃	松 田 俊 道	〃	

Ⅳ 役 職 員 名 簿

平成 5 年 3 月 31 日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	北 村 甫	麗澤大学教授 東京外国語大学名誉教授
理 事	有 光 次 郎	日本芸術院顧問
〃	石 井 米 雄	上智大学教授 京都大学名誉教授
〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大名誉教授
〃	岩 崎 寛 彌	株式会社三菱銀行取締役 東山農事株式会社代表取締役社長
〃	河 野 六 郎	日本学士院会員 東京教育大学名誉教授
〃	佐 藤 次 高	財団法人東洋文庫研究部長 東京大学教授
〃	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
〃	田 中 正 俊	神田外語大学教授 東京大学名誉教授
〃	中 村 俊 男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林 健太郎	東京大学名誉教授
〃	護 雅 夫	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監 事	池 原 正 道	日本コムシス株式会社監査役
〃	白 石 元 良	三菱金曜会事務局長

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	有 馬 朗 人	東京大学長
〃	石 川 忠 雄	慶應義塾長
〃	井 村 裕 夫	京都大学長
〃	岡 野 澄	財団法人井上科学振興財団常務理事 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	亀 井 孝	一橋大学名誉教授
〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
〃	小 山 宙 丸	早稲田大学総長
〃	関 野 雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
〃	田 部 文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	中 田 乙 一	三菱地所株式会社相談役
〃	長谷川 周 重	住友化学工業株式会社相談役
〃	日比野 丈 夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	前 田 充 明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問

2. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委員長	北 村 甫	財団法人東洋文庫理事長，麗澤大学教授
委員	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	入 矢 義 高	花園大学客員教授 名古屋大学名誉教授
〃	江 上 波 夫	古代オリエント博物館長 東京大学名誉教授
〃	尾 崎 康	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授
〃	佐 藤 長	佛教大学教授 京都大学名誉教授
〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
〃	竺 沙 雅 章	京都大学教授
〃	長 尾 雅 人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	学術情報センター教授
〃	日比野 丈 夫	大手前女子大学長，京都大学名誉教授
〃	本 田 實 信	名古屋商科大学教授 京都大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W. T. デ ・ バ リ イ	コロンビア大学教授
J. ジ エ ル ネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フ ラ ン ケ	ミュンヘン大学教授
L. ベ テ ッ ク	ローマ大学教授

4. 職 員

(平成 5 年 3 月 31 日現在)

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	佐 藤 次 高	東京大学教授
	研 究 員 (兼任)	荒 松 雄	恵泉女学園大学教授
	〃	池 田 温	北京日本学研究中心教授
	〃	池 端 雪 浦	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	石 井 米 雄	上智大学教授
	〃	石 塚 晴 通	北海道大学教授
	〃	石 橋 崇 雄	国土館大学助教授
	〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
	〃	上 野 英 二	成城大学助教授
	〃	宇都木 章	青山学院大学教授
	〃	梅 村 坦	立正大学教授
	〃	海 野 一 隆	大阪大学名誉教授
	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学教授
	〃	越 智 重 明	九州大学名誉教授
	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	風 間 喜代三	法政大学教授
	〃	片 山 章 雄	東海大学専任講師
	〃	加 藤 直 人	日本大学助教授
	〃	亀 井 孝	一橋大学名誉教授
	〃	川 崎 信 定	筑波大学教授
	〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
	〃	菊 池 英 夫	中央大学教授
	〃	北 村 甫	麗澤大学教授
	〃	草 野 靖	福岡大学教授
	〃	小 松 久 男	東京外国語大学助教授
	〃	河 野 六 郎	東京教育大学名誉教授
	〃	後 藤 明	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	後 藤 均 平	立教大学名誉教授
	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
	〃	佐 竹 昭 広	成城大学教授
	〃	酒 井 憲 二	調布学園女子短期大学長

部 名	職 名	氏 名	現 職
	研 究 員 (兼任)	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
	〃	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
	〃	蒨 勇 造	東京大学助教授
	〃	清 水 宏 祐	東京外国語大学教授
	〃	杉 山 正 明	京都大学助教授
	〃	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
	〃	関 野 雄	東京大学名誉教授
	〃	田 中 時 彦	東海大学教授
	〃	田 中 正 俊	神田外語大学教授
	〃	C.A.ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	武 田 幸 男	東京大学教授
	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館教授
	〃	千 葉 熨	桐朋学園理事長
	〃	竺 沙 雅 章	京都大学教授
	〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学教授
	〃	朽 尾 武	成城大学教授
	〃	土 肥 義 和	國学院大学教授
	〃	鳥 海 靖	東京大学教授
	〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
	〃	永 田 雄 三	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学教授
	〃	原 實	東京大学名誉教授
	〃	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
	〃	星 實千代	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所共同研究員
	〃	本 田 實 信	名古屋商科大学教授
	〃	松 濤 誠 達	大正大学教授
	〃	松 村 潤	日本大学教授
	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学助教授
	〃	三根谷 徹	東京大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
	研 究 員 (兼任)	御 牧 克 己	京都大学教授
	〃	宮 崎 修 多	成城大学専任講師
	〃	護 雅 夫	東京大学名誉教授
	〃	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	矢 澤 利 彦	埼玉大学名誉教授
	〃	柳 田 征 司	愛媛大学教授
	〃	柳 田 節 子	学習院大学名誉教授
	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
	〃	山 口 謡 司	ケンブリッジ大学助手
	〃	山 崎 元 一	國学院大学教授
	〃	山 根 幸 夫	東京女子大学名誉教授
	〃	山 本 達 郎	東京大学名誉教授
	〃	和 田 博 徳	創価大学教授
	〃	渡 辺 宏	東洋大学アジア・アフリカ研究所 研究員
	〃	渡 辺 紘 良	獨協医科大学教授
	研 究 員 (専任)	松 本 明	
	〃	本 庄 比佐子	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	斯 波 義 信
	東洋文庫長	渡 辺 兼 庸*
	主 査	小 山 勲*, 竹之内 信 子*
	副 主 査	池 田 直 人*, 志 茂 碩 敏*, 広 瀬 洋 子*
	事 務 主 任	小 林 輝 男*, 西 蘭 一 男*
	司 書	桜 井 徹, 中善寺 慎, 蓮 沼 龍 子
総務部	部 長	東 陽太郎
	課 長	光 田 憲 雄
	会 計 係 長	金 子 祐 子
	参 事	中 沢 元 幸, 橋 伸 子, 小 松 眞 理
		吉 田 男佐武, 広 木 節 巳, 長谷川 茂 広

(* 印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

2. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	五十嵐 紀 子, 石 川 重 雄, 石 川 美 恵, 泉 千 尋 市 田 真 理, 伊 藤 千 賀 子, 伊 東 美 佐 子 ウィリアム・シャング, 及 川 枝 美, 大 島 誠 二 太 田 敬 子, 小 原 晃, 兼 平 充 明, 現銀谷 史 明 久保田 善 丈, 斎 藤 達 也, 武 石 慎 一, 田 中 一 恵 田 中 公 明, 田 村 多 衣, 外 川 和 雄, 中 林 豊 長谷川 誠 夫, 波多野 毅 弘, 原 朝 子, 福 田 裕 美 子 福 原 良 隆, プドレス・リリアン, 帆 刈 浩 之 星 野 多 佳 子, 本 郷 令 子, 松 戸 清 裕, 光 田 剛 翁 水 野 善 文, 山 口 洋, 尹 栄 方, 吉 田 健 翁 李 培 徳
図書部	石 黒 ひさ子, 磯 谷 泰 幸, 岩 城 志 津 香, 岩 見 隆 金 沢 悦 男, 清 水 一 枝, 沈 潔, 菅 原 純 関 喜 房, 高 木 雅 弘, 高 田 まゆみ, 高 田 幸 男 竹 越 孝, 荷 見 守 義, 前 迫 勝 明, 山 口 乾 ヤマンラール・水 野 美奈子
総務部	豊 田 典 子, 山 本 きみ子, 中 太 葉 子

V 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概 要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし、研究の促進、及び研究成果の普及を図る。

1. ユネスコ協力活動

【概 要】 ユネスコ本部の企画・運営する事業に対して日本における機関として積極的に協力し、関連する諸事業を推進する。

【事業内容】

(1) 「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる同シリーズに対し日本の機関として編集に協力するため、専門委員梅村坦立正大学教授を中心に、編集協力委員会の編成を協議した。

(2) 参加事業計画

ユネスコ本部の参加事業計画 UNESCO Participation Programme 1992-93, Major Programme Area III; Culture: past, present and future に「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版事業をもって参加した。

2. 学術情報活動 —アジア・北アフリカ人文・社会科学関係—

【概 要】 アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会の研究に関する情報を組織的かつ継続的に収集・交換し、その情報を公開することによって、国内外の諸研究機関及び研究者の間の交流・協力を促進する。

2—1. “Asian Research Trends” の編集・出版

【概 要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報を全世界に向けて提供する。

【事業内容】

英文の年刊誌 “Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review” の編集・出版を行なった。本年度は No. 3 を刊行し、アジア諸国におけるアジア研究・自国研究、日本におけるアジア研究の動向を中心に掲載、あわせて下記「国外研究情報の収集」(2-2-(2)) において訪問した関係研究機関の調査報告、下記「海外専門家の招聘」(2-2-(3)) による招聘研究者の報告等を掲載した。

2—2. 国内外研究情報の収集

【概 要】 国内外のアジア・北アフリカ研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学術交流のための基礎資料とする。

【事業内容】

(1) 国内研究情報の収集

研究機関の近年の著しい増加に対応して新たな機関リストの作成を進め、研究機関が発行する要覧・紀要などを収集した。また、主要な機関をセンター所員が訪れ、活動状況について相互に情報を交換した。さらに、いわゆる「東洋学」の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、各機関の研究活動及び国際交流について情報交換の促進を図った。

(2) 国外研究情報の収集

(2)―A. 国外研究機関の訪問調査

本年度調査国の研究機関、研究状況等についての資料収集をし、アジア関係研究機関の訪問調査をした。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記の通りである。

大韓民国：藤井和夫（日野市ふるさと博物館学芸係長） 11月1日—11月15日

(2)―B. 講演会の開催

来日中の外国人研究者等を招いて講演会を開催し、諸外国の研究情報を得、国内研究者との交流を図った。

10月26日(月) 申 敬 澈 韓国慶星大学校人文大学助教授

主題：「考古学からみた伽耶」

会場：東洋文庫会議室 出席者：11名

東北アジア考古学研究会（田村晃一青山学院大学教授主宰）との共催による。
 11月27日（金） 林 慶 彰 台湾中央研究院中国文哲研究所副研究員
 主題：「台湾における経学史研究の動向」
 会場：東洋文庫会議室 出席者：10名 通訳者：許政雄

(2)―C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

本年度2-2-(2)-B及び2-2-(3)に記載の外国人研究者以外に、センターを訪れ、センターが情報等の便宜供与を行なった外国人研究者は下記の通りである。

Stargardt, Janice (Ms)	Director, Cambridge Project on Ancient Civilization in Southeast Asia, Cambridge, United Kingdom
Aurathai Wareesa-ard (Ms)	Librarian, The Central Library, Srinakharinwirot University, Bangkok, Thailand
Pai Hyung Il (裴炯逸) (Ms)	Assistant Professor, Dept. of History, University of California at Santa Barbara, CA, USA
Daiber, Hans	Professor, Free University Amsterdam, Amsterdam, The Netherlands
Young, Timothy Joseph	
Amoretti, Biancamaria Scarcia (Ms)	Professor, Università degli studi di Roma "La Sapienza," Roma, Italy
Orsi, Maria Teresa (Ms)	同
權 泰 煥	ソウル大学校社会科学大学教授・同大学校地域総合研究所所長, ソウル, 韓国
Mücteba İlğurel	Professor, Fen-Edebiyat Fakültesi, Marmara Üniversitesi, İstanbul, Turkey
Modjtaba Sadria	上智大学講師
Pattaratorn Chirapravati (Ms)	Ph.D. candidate, Cornell University, Ithaca, NY, USA
Bira, Shagdaryn	Academician, Mongolian Academy of Sciences, Ulaanbaatar, Mongol
Hudson, Mark J.	Ph.D. candidate, Australian National University, Canberra, Australia
Ezzai A. Khattab	Professor, College of Arts, King Saud University, Riyadh, Saudi Arabia

Menshikov, Lev N.	Chief Scientific Fellow, Dept. of Far Eastern Textology, Institute of Oriental Studies, Russian Academy of Sciences, Sankt Peterburg, Russia
崔 柄 憲	ソウル大学校 人文大学 国史学科 教授, ソウル, 韓国
金 成 中	国史編纂委員会, 果川, 京畿道, 韓国
李 南 聖	同
金 宰 晟	東京大学大学院生 (印度哲学)
Selim Deringil	Associate Professor, Dept. of History, Boğazici Üniversitesi, İstanbul, Turkey
Selçuk Esenbel	同
Fayza Haikal (Ms)	Professor, The American University in Cairo, Cairo, Egypt
金 好 蓮 (海住) (Ms)	東国大学校仏教学科助教授, ソウル, 韓国
金 秀 娥 (Ms)	東京大学大学院生 (印度哲学)
徐 海 基	海印寺, 慶尚南道陝川郡, 韓国
Halperin, Mark	Ph.D. candidate, University of California at Berkeley, CA, USA
Chuguyevsky, Leonid I.	Senior Research Worker, Institute of Oriental Studies (St. Petersburg Branch), Russian Academy of Sciences, Sankt Peterburg, Russia

(3) 海外専門家の招聘

学術交流を目的として海外の専門家を下記の通り招聘した。

林 慶 彰 台湾, 中央研究院中国文哲研究所副研究員

許 政 雄 同研究所研究助理

平成4年11月22日—12月4日 所属機関の派遣により来日, 東洋文庫等で調査研究と講演(上記2-2-(2)-B)を行なった。

学術交流を目的として来日した専門家を下記の通り受け入れた。

Mattani Moj dara Rutnin (Ms) Professor, Drama Dept., Faculty of Fine and Applied Arts, Thammasat University, Bangkok, Thailand.

平成5年3月15日—3月28日 日本学術振興会の招聘による。

2—3. 文献目録の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」（2-2）において収集した学術情報を bibliography として英文で刊行し、内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

- (1) 「日本における中東・イスラーム研究文献目録 1868年-1988年」の「索引」篇の編集・出版

“Bibliography of Islamic and Middle Eastern Studies in Japan, 1868-1988: Index,” compiled by CEACS.

同書の編集・出版を行なった。本書は、ユネスコ本部の参加事業計画として企画し、昨年度に刊行した目録本篇の「索引」である。研究分野別の編成をとった目録篇に対し、文献検索の便宜を図るため、著者名索引及び掲載雑誌一覧を収載した。編集は目録篇に引き続き佐藤次高東京大学教授及び三浦徹お茶の水女子大学助教授の指導のもとに行なわれた。

- (2) 「日本における中東・イスラーム研究文献目録 1868年-1988年」の目録本篇の増刷

同書の在庫品切に伴い、利用者の強い要望に応じて増刷を行なった。

- (3) 「ベトナム書誌」の編集

同書の編集を行なった。

2—4. Directory の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」（2-2）において収集した学術情報を directory として英文で刊行し、内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

- (1) 国内研究者名簿の作成

研究団体名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成、及び個人アンケート調査を通じて、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。収集した情報はコンピュータ入力し、データベース化している。

- (2) 海外研究機関一覧の編集

韓国、中国、台湾、インドネシア、タイ、及びインドに存在するアジア関係研究機関のリストの作成及び資料収集を行なった。

- (3) 「日本におけるアジア研究機関一覧」の編集

国内研究機関のリストの作成及び資料収集を行なった。

- (4) 「国内研究機関の国際交流一覧」の編集

国内の「東洋学」研究機関が実施している出版物の寄贈・交換等の国際交流の現

状について調査し、主要機関のメイリング・リスト一覧の作成を行なった。調査した情報はコンピュータ入力し、データベース化している。

3. 重要文献の保存・普及活動 —アジア重要文化財(文献)の保存・普及—

【概 要】 アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

3—1. 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

【概 要】 アジア重要文化財として高い価値を有しながら、散逸の危険にさらされている文献や、入手のきわめて困難な文献について、それを写真版によって複製し、普及を図る。

【事業内容】

(1) 「バーガヴァタ・プラーナ挿画集」の編集・出版

“Bhāgavata-purāṇa Miniature Paintings from the Bhandarkar Oriental Research Institute Manuscript Dated 1648,” with an introduction and synopses, written by Tadashi Shimizu. <Bibliotheca Codicum Asiaticorum 7>

「アジア重要文献覆刻叢書」第7巻として、同書の編集・出版を行なった。本書は、インド、プーナのバンダルカル東洋学研究所所蔵のヒンドゥー教聖典「バーガヴァタ・プラーナ」1648年写本の細密画挿図128点を、カラー写真版により英文解説を付して複製したものである。原典の写真は、かねて社団法人東京倶楽部の援助により撮影したものを利用した。出版に際し、ふたたび同倶楽部の助成金を受けた。編集・解説は、清水乞東洋大学教授による。

(2) 「ヴァスバンドゥ三部作」(「三十頌」など)の増刷

「アジア重要文献覆刻叢書」第1巻である同書の在庫品切に伴い、読者の需要に応じて増刷を行なった。

3—2. アジア史料の保存・普及

【概 要】 アジア諸地域の歴史と文化に関する基本的史料を収集・保存するとともに、広く普及を図る。

【事業内容】

(1) 「アジア史料叢刊」の編集・出版

「十九世紀ベトナム・ラオス関係史」の編集・出版を検討し、原稿の一部を入手した。これは、19世紀ベトナムの対ラオス外交に関する漢文史料を英訳し、英文の解説と注釈とを付したものである。

(2) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

東南アジア及びインド・ネパールの歴史と文化に関するマイクロフィルム資料の保管と研究者への提供を行なった。

4. 研究普及活動

4—1. 研究成果の英文出版

【概 要】 アジア諸地域の文化・社会に関する研究の成果を英文で出版し、関係の研究者に周知させる。

【事業内容】

(1) 「タイ国舞台芸術史」の編集・出版

“Dance, Drama, and Theatre in Thailand: The Process of Development and Modernization,” by Mattani Mojdara Rutnin.

同書の編集・出版を行なった。著者マッターニー・ラットニン氏は、タイのタマサート大学教授で、かねてセンターの招聘研究者としてしばしば来日し（上記2-2-(3)に該当）、センターの調査研究事業の協力者でもあった。本書は、同氏の研究書である。

(2) 「東アジア社会の研究」の出版

“Home Bound: Studies in East Asian Society,” edited by Chie Nakane and Chien Chiao.

同書の編集・出版を行なった。本書は、中国の社会学者である費孝通氏の傘寿を記念して催されたシンポジウムにおける東アジア諸社会に関する研究報告をもとに、中根千枝東京大学名誉教授・喬健香港中文大学教授により編まれた論文集である。出版に際し、財団法人地域社会研究所より助成金を受けた。

4—2. 語学講習会

【概 要】 アジア諸言語の講習会を、初学者を対象として短期集中方式により実施し、学習の機会に乏しい言語の基礎教育を行なうとともに、語学教授法の発達に寄与する。

【事業内容】

(1) 第32回語学講習会「タイ語講習会」の開催

名古屋大学大学院国際開発研究科及び同大学文学部の要請に応え、この両者との共催により下記の通り実施し、着実な成果をあげて終了した。また、名古屋大学大学院の履修単位に認定されるとともに、大学の社会人教育の一環として大学と地域との交流にも貢献した。

期 間：平成4年7月20日(月)—8月28日(金) (土・日曜日を除く)

午前9時30分—12時30分 全90時間

なお放課後に適宜課外実習を施した。

共 催：名古屋大学大学院国際開発研究科・名古屋大学文学部

会 場：名古屋大学豊田講堂会議室

講 師：石井米雄 (センター所長、京都大学名誉教授、上智大学アジア文化研究所教授)

山田 均 (日本学術振興会特別研究員)

チューターマート・ヌットラーウォン (Ms)

教 材：講師の作成になるテキスト及び練習問題・模範解答、モデル・リーディング録音カセット・テープ(30分) 3巻、その他

修了者：17名

備 考：名古屋大学大学院国際開発研究科は、修了者のうち同大学院在籍者5名に対し履修単位を認定した。

4—3. 普及活動

センターの活動について問合せに応じ、また出版物の寄贈・交換等を行なった。「ニューズレター」No. 4の編集を行なった。

5. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

前 期 開 催 日 平成4年5月26日（火曜日） 午後1時30分—3時15分

場 所 東洋文庫3階会議室

出席委員 7名 委任状15名

報 告 1. 副所長の退任について
2. 参与の再任について
3. 運営委員の委嘱について

議 題 1. 顧問の推薦について
2. 参与の委嘱について
3. 平成3年度事業報告及び決算報告について
4. 平成4年度事業計画案及び予算案について
5. その他

センターの名称について

後 期 開 催 日 平成4年11月24日（火曜日） 午後1時40分—3時15分

場 所 東洋文庫3階会議室

出席委員 4名 委任状12名

報 告 1. 顧問の委嘱について
2. 運営委員の委嘱について
3. その他

出版物の刊行について

議 題 1. 平成4年度事業中間報告及び収支状況報告について
2. 平成5年度事業計画案及び収支予算案について
3. その他

完全週休2日制実施による就業規則改訂について

顧問会議

開 催 日 平成4年5月26日（火曜日） 午後1時30分—3時15分

場 所 東洋文庫3階会議室

出席顧問 委任状4名

- 報 告 1. 副所長の退任について
2. 参与の再任について
3. 運営委員の委嘱について

- 議 題 1. 顧問の推薦について
2. 参与の委嘱について
3. 平成3年度事業報告及び決算報告について
4. 平成4年度事業計画案及び予算案について
5. その他

センターの名称について

B. 役員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区分	備 考
4 年 4. 1	運営委員	松谷 敏雄	就任	東京大学東洋文化研究所所長
〃	〃	山崎 元一	〃	国学院大学文学部教授
4.24	顧 問	鹿取 泰衛	退任	前国際交流基金理事長
4.25	〃	浅尾新一郎	就任	国際交流基金理事長
5.31	〃	天城 勲	退任	日本ユネスコ国内委員会会長
6. 1	〃	西島 安則	就任	日本ユネスコ国内委員会会長
6.30	運営委員	岡野 澄	退任	財団法人井上科学振興財団常務理事・東京工業高等専門学校名誉教授・財団法人東洋文庫評議員
〃	〃	尾高 邦雄	〃	日本学士院会員・東京大学名誉教授
〃	〃	中村 元	〃	日本学士院会員・東京大学名誉教授・東方学院院长
〃	〃	服部 四郎	〃	日本学士院会員・東京大学名誉教授
〃	〃	山本 達郎	〃	日本学士院会員・東京大学名誉教授・東洋文庫理事
〃	〃	宗像 善俊	〃	アジア経済研究所所長
7. 1	〃	山田 勝久	就任	アジア経済研究所所長
〃	顧 問	尾高 邦雄	〃	(前出)
〃	〃	岡野 澄	〃	(前出)
〃	〃	山本 達郎	〃	(前出)
〃	参 与	中村 元	〃	(前出)
〃	〃	服部 四郎	〃	(前出)
〃	運営委員	河野 靖	再任	上智大学アジア文化研究所客員研究員
〃	参 与	織田 武雄	〃	京都大学名誉教授
〃	〃	長尾 雅人	〃	日本学士院会員・京都大学名誉教授
8.12	運営委員	渡辺 伸	退任	前文部省大臣官房審議官
8.13	〃	宮本 吉範	就任	文部省大臣官房審議官
9.30	〃	犬丸 直	退任	前財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
10. 1	〃	三角 哲生	就任	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
5 年 3.31	〃	梅棹 忠夫	退任	国立民族学博物館館長
〃	〃	益田 宗	〃	東京大学東洋文化研究所所長
〃	〃	山田 勝兵	〃	文部省大臣官房審議官
〃	〃	吉川 忠夫	〃	京都大学人文科学研究所所長

C. 職員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区分	備 考
4 年 7. 1 〃	研 究 員 〃	本庄比佐子 後藤 敦子	移籍 就職	財団法人東洋文庫研究部に転出

D. 会計報告

平成4年度 ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(平成5年3月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金額 (千円)	科 目	金額 (千円)
事 業 費	26,517	国 庫 補 助 金	80,000
ユネスコ協力活動費	413	財 産 収 入	8
学術情報活動費	12,433	雑 収 入	7,388
重要文献の保存・普及 活動費	4,813		
研究普及活動費	8,858		
経 常 費	60,879		
人 件 費	58,492		
事 務 費	2,387		
計	87,396	計	87,396

6. 役職員名簿

平成5年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下の通りである。

A. 所長 石井 米雄

B. 運営委員

氏 名	現 職
池 端 雪 浦	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
梅 棹 忠 夫	国立民族学博物館館長
片 倉 邦 雄	国際交流基金専務理事
上 岡 弘 二	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
辛 島 昇	東京大学文学部教授
河 野 靖	上智大学アジア文化研究所客員研究員
佐々木 高 明	国立民族学博物館教授
佐 藤 次 高	東京大学文学部教授・財団法人東洋文庫理事
斯 波 義 信	国際基督教大学教養学部教授・財団法人東洋文庫理事
竺 沙 雅 章	京都大学文学部教授
中 根 千 枝	東京大学名誉教授・財団法人民族学振興会理事長
益 田 宗	東京大学史料編纂所所長
松 谷 敏 雄	東京大学東洋文化研究所所長
三 角 哲 生	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
宮 本 吉 範	文部省大臣官房審議官
矢 野 暢	京都大学東南アジア研究センター所長
山 崎 元 一	国学院大学文学部教授
山 田 勝 久	アジア経済研究所所長
山 田 勝 兵	文部省大臣官房審議官
吉 川 忠 夫	京都大学人文科学研究所所長

C. 顧問

氏 名	現 職
浅 尾 新一郎	国際交流基金理事長
尾 高 邦 雄	日本学士院会員・東京大学名誉教授
岡 野 澄	財団法人井上科学振興財団常務理事・東京工業高等専門学校名誉教授・財団法人東洋文庫評議員
西 島 安 則	日本ユネスコ国内委員会会長
長谷川 善 一	文部省学術国際局局长
前 田 充 明	財団法人国際学友会理事・城西大学名誉教授・財団法人東洋文庫評議員
山 本 達 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授・財団法人東洋文庫理事

D. 参 与

氏 名	現 職
織 田 武 雄	京都大学名誉教授
田 村 實 造	京都大学名誉教授
中 村 元	日本学士院会員・東方学院院长・東京大学名誉教授
長 尾 雅 人	日本学士院会員・京都大学名誉教授
服 部 四 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
丸 山 真 男	日本学士院会員・東京大学名誉教授

E. 専門員

John Wisnom

F. 職 員

職 名	氏 名
調査外事室長	大井 剛
普及室長	外池明江
庶務会計室長	飯田隆子
研 究 員	設楽靖子 福田洋一 後藤敦子
参 事	坂本葉子 小林和弘

G. 臨時職員

平成4年4月1日から平成5年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下の通りである。

青柳かおる，秋葉 淳，石丸由美，粕谷 元，黒岩 高，高野太輔，後藤敦子，
後藤裕加子，近藤信彰，佐々木あや乃，佐藤健太郎，島かおる，島谷泰子，
清水敏江，高松洋一，竹野幸子，田村多衣，徳増克己，十倉桐子，橋本秀美，
東村岳史，水野善文，三谷千恵，三好祥子，森本一夫，山口昭彦，山中由里子，
山本美華，吉枝聡子，渡部良子

財団法人 東洋文庫年報 平成4年度

平成5年11月10日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

北村 甫

印刷者 (株) 東京プレス

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

